

アンケートまとめ（概要）

平成 18 年 5 月 31 日

鹿児島大学工学部応用化学工学科応用化学コース

応用化学教育についての卒業生アンケート調査報告

応用化学コース J A B E E 対策委員会

応用化学工学科 JABEE 応用化学コース対策委員会では、応用化学コースの教育改善のため、関係の卒業生にアンケート調査を実施しました。この場を借り先ず回答頂いた卒業生諸氏、協力頂いた学科事務支援室・大戸さんに感謝致します。

工学部同窓会会報第 6 号（刊行）送付時に、本年 3 月 3 日付で、主に平成 4 年卒業生から若い方々約 500 名にアンケート調査協力をお願いをしました。

先ず会報と同時に手紙文（A4 の 1 頁）を入れ、e-mail での“教育改善のための卒業生アンケート調査”に賛成頂ける人から e-mail アドレスをもらい、次に卒業生へのアンケート調査（A4 の 3 頁： ～ 項目計 20 問）を実施し、e-mail での回答計 88 通がありました。メールの分った早い時期の卒業生数人分（その後社会人学生経験者や教育系・研究所勤務の方々など）も含まれます。

調査項目は次の通りでした。

個人属性（氏名、学部・修士・博士の卒業（修了）年）

大学卒業後に受けた教育（鹿児島大学以外）（問 1.大学院の教育、専門学校等）

就職活動（問 2.就職情報（活用した情報の種類）問 3.学科の就職担当教官の就職活動支援、問 4.全般）

大学で受けた教育（問 5.人文・社会系、問 6.自然系（化学以外）問 7.専門関係、問 8.語学系、問 9.コンピュータ系、問 10.学外実習・工場見学（参加した場合のみ記入）問 11.卒業研究、問 12.各教育施設、問 13.教育改善プロセス(PDCA サイクル*)

* PDCA：P(Plan：企画)-D(Do：実施)-C(Check：評価)-A(Action：改善)のサイクル

大学院で受けた教育（問 14.大学院での教育（進学者のみ記入）

大学での学生生活（問 15.クラブ・サークル活動、問 16.アルバイト活動等）

卒業後（問 17.大学のホームページへのアクセス(<http://ace.cen.kagoshima-u.ac.jp/>)、問 18.他大学学科卒と比較して、問 19.全般的な評価、問 20.特に社会人として重要と思うこと、後輩に伝えたいこと等）

アンケート集計結果（26 頁）を応用化学コースのホームページに添付しました。教育と教育環境の改善に多くのご意見、提言、改善指針等があります。応化コース学生はじめ関係者に一読・活用をお願いします。当委員会では教育改善（A）に利用します。

以下概要を示します。

就職活動

問 2. 就職情報、問 3. 学科支援：就職について、学科・コース・研究室の支援と対応は、かなりよい評価を得ている。しかしもう少し早い時期から、特に将来設計も考えた勉学・調査が大切である。恒例の5月第2土曜の同窓会と学科共催の講演会への参加を推奨。

問 4. 全般：後輩へのアドバイス

- ・就職活動の開始をもっと早くするべき。面接の経験大切。
- ・情報収集に積極的に努める。自分に適した、自分のやりたい会社を選ぶべき（将来性も大切）。
- ・根性・粘ること・謙虚な姿勢が大切。
- ・自分をアピールする手法を身につける。コミュニケーション力。人間性の高さ。自分の出来ること。貢献できること。自覚のレベルアップ。
- ・給与体系、手当など福利厚生面もチェックする。実際に自分の目で見て判断すること。
- ・就職活動に経験のある先輩等からの情報収集。
- ・自分のやりたいと思う仕事・研究に就くためには、4年からでは遅い。
- ・面接での的確な対応が出来るよう。声を大きく話すこと。
- ・専門分野だけでなく、社会の動きを知っておくこと、等々。

大学で受けた教育

問 5. 人文・社会系：人文・社会系の受講については評点（5～1）で3以下が多くなっていて評価がよくない。

一方で役立つ科目、受講したい科目等の記述からは、それらの必要性が示唆されている。要は教員と学生の真剣で熱心な対応と工夫がないと効果があがらないということであろう。

(2) 特に役に立った科目

- ・教育学、哲学、世界史、倫理学、社会学、経済学など14科目あり。
- ・ 広く歴史や社会一般のことを知ることは、社会人の知識として非常に有益。

(3) カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目

・金融システム、国語、中国・韓国のこと、マーケティング、労働基準法、経理など十数種あり。

問 6. 自然系（化学以外）：化学科目以外も有益との意識が強く現れている。また、卒業後品質管理などの独学での状況が伺える。

(3) カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目

- ・機械工学、品質管理、食品化工等約十種。

問 7. 専門関係：専門科目関係は、かなり有益であったとの評価があっている。専門の開講されている科目全般に渡って上がっている。就職先または仕事状況により、化学系専門の知識・応用が生かされていると考える。

受講が望ましい科目では、実験計画法、高分子物性、知的財産権、ISO など。また境界領域の学習対策としての学部連携講義の開講や他学部科目受講の許容拡大の提案。

問 8.語学系：語学系は、評点 3±1 に大部分入っているが 1 も少なくないので注意したい。役立つ科目、受講が望ましい科目の所の記述から、語学は就職後必要で英語のコミュニケーションへの利用、中国語、韓国語の学習等がなされていて、将来重要であることが分る。

問 9.コンピュータ系：関係の教育については、評価 3 と 2 が大部分で評価があまりよくない。以下良かった点、改善点を抜粋する。

(2)良かった点

- ・ BASIC の考え方は EXCEL の関数を入力する基礎であると思う
- ・ プログラミングの基礎を理解することができた。
- ・ パソコンの取り扱い入門になった。
- ・ BASIC 言語を学べた。
- ・ 大型コンピュータの取り扱い。
- ・ EXCEL の基本を学ぶことができた

(3)改善すべき点

- ・ プログラミングよりもエクセル・ワードといったソフト操作を習得した方がいいと思います。
- ・ 実社会で使えるコンピュータの講義をしていただきたい。
- ・ 当時はまだ今のような PC 環境ではなかったので、いたしかたありませんが、今の時代は表計算（エクセル）ワープロ（ワード）、プレゼン（パワーポイント）などが使えることが社会人の基本かと思います。ソフトはいろいろあると思いますが、基本的なソフトでの実践教育をするべきだと考えます。
- ・ 現在では、化学系でもネットワークに関する知識をもう少し教育する必要があるのではないか。
- ・ ウイルス対策など社会に出てからの法令順守。
- ・ 当時受講した BASIC は、化学屋の私としては使用する機会がない。それよりは WINDOWS 等のパソコンの使用法等についての講義があれば良い。
- ・ 基本的な C 言語や、プログラミングを書けるように授業内容を改善していただきたいです。
- ・ シスアドなどの資格取得対策も考慮された講義が必要

問 10.学外実習・工場見学：工場見学は結構に企業の仕事を理解する、また将来の仕事を考える意識を育てている。

(2)良かった点

- ・ 企業における仕事の内容、手順が少し判った。
- ・ 先輩の生の話を聞いたこと。
- ・ 就職前に実社会の雰囲気を実感できたことは有意義であった。
- ・ 九州内の主要な工場を見学でき、企業の雰囲気を体験できたこと。今でも自分の中での企業のイメージのベンチマークとなっています。
- ・ 企業で実際にどのようにして研究・開発が行われているのかを肌で感じる事ができた。

・学外実習を受けたことで、希望する職種の方々と直に接することができ、就職してからの自分をイメージすることができた。

(3)改善すべき点

- ・学生の希望アンケートをとって工場見学場所を選定してもらいたい。
- ・時間もあまりないですが、1カ所の時間が短かったような気がします。
- ・九州以外の企業、特に関東の企業も見学の対象とした方がよいと思います。
- ・品質管理・危機管理などの生産以外の点も注目するとよい。
- ・入社したい業種にインターンとして仕事を体験できるようにしては

問 11.卒業研究：5段階評価で大部分が、評価5のとても有益だった、としている。研究の考え方、進め方、基礎的実験技術、問題解決・分析能力、また文章構成力、発表技術等が意識されている。

(2)良かった点

- ・先生方の助言を得ながら研究を行っていくことは、会社での仕事への姿勢に通じており、非常に勉強になった。
- ・自分なりに目標を立てて完結できたことは自信になった。
- ・化学反応に対する基礎的な考え方を習得でき、就職後も卒業研究で取組んだ経験を活かして、問題を捉えて解決まで持っていく方法論が学べた。
- ・一連の研究は、現在自分の中の基礎になってます。
- ・仮説を構築する力とそれを検証する力を学ぶことができたこと。卒論作成を通して、文章構成力が身に付いたこと。
- ・基礎的な実験の進め方、報告、発表技術を身に付けることができた。
- ・物性評価試験の手法や解析法はすぐに役立ちました。また、検討会や卒論発表を経験したことは報告やプレゼンに役立ちました。さらに、工業技術センターを活用させていただいていたことで、人脈ができました。
- ・計画 実行 結果考察 改善のサイクルが身についた

(3)改善すべき点

- ・各論的指導だけでなく、研究の全体像の描き方・組立て方（コーディネート方法）を教える必要がある。
- ・優秀な研究を表彰するような制度があっても良いのではないか
- ・理論・メカニズムの解明にも力を入れて欲しかった。
- ・研究テーマは入社試験時の重要な位置づけであるので、学生皆に有意義なテーマを与えべきだ。
- ・研究の進め方、レポートのまとめ方等をスキルとして定着させるようにしたほうが良いと思います。
- ・研究の交流を活発にしてほしい

問 12.各教育施設：よかった点の記入欄からは分析機器、実験器具類またコンピュータ等もそろっていたように察せられる。しかし、改善すべき点の欄から、所属研究室で状況が異

なることが分る。また提案された図書室等の備品は学科・コースで相談していきたい。

(1)情報処理施設

・良かった点

- ・当時高価であった情報処理機器を台数に制限があったが、利用できる環境にあったこと。
- ・設備に関しては問題無かった。
- ・気軽にコンピュータを活用できた。台数が多い。
- ・当時研究室にパソコンが卒論作成に困らない程度に数台あったという点。

・改善すべき点

- ・演算など処理能力が不足であった。
- ・学科図書室等に学部生（1 - 2年生）が利用できる端末があればよいと思う。
- ・ネット犯罪にかかわらないような、管理体制の拡充
- ・活用しやすい環境を作ってほしかった

(2)実験設備

・良かった点

・基本的に学生時代には十分と感じておりましたし、他学部の装置も使わせていただいたりしました。欲を言えばキリがありませんし、お金がない（設備が少ない）なりに自分で考えて実験装置を工夫したり、手作りしたりすることも身についたのは良かったです。

- ・NMRなどは他大学出身者の話を聞いても当時最先端に行くものであった。
- ・基礎的な分析設備は問題なかった。
- ・様々な分析機器がそろっており、卒論研究に利用できた。
- ・研究に困らない程度の設備はあった点。

・改善すべき点

- ・実験機器が古いと思います。最新の機器への更新は随時行った方がいいと思います。
- ・清潔感がない。
- ・古かった
- ・分析装置の不足（当時）
- ・学生実習用の器具は老朽化したものも多かった。
- ・汎用性、利便性、使用頻度が高いと思われる装置の更新が遅い。（学科の機器分析装置）
- ・ドラフトはもっと充実させた方がよいと思う。
- ・大型の共通機器が少なすぎる

(3)図書館

・良かった点

- ・各学科の図書室が充実していた（雑誌や参考書の蔵書数など）
- ・文献の検索や図書から物性知識を身につけた。
- ・学習スペースなどは使いやすいと思う。
- ・最新設備の図書館を利用できた。
- ・オープン的で入館しやすい雰囲気・使用環境は良かった。

・改善すべき点

- ・蔵書がもう少しあった方がいいです。
- ・多くの論文をすぐに入手できるようにしてほしい。
- ・専門の英文雑誌が完全ではない点。
- ・パソコン検索システムが分かりづらかった。
- ・24時間使用させていただけるようにしてほしい、LANがせっかくあるのにネット接続できなかった点。
- ・一般の文庫本やビジネス書、就職関係の本も置いて欲しい
- ・使用可能時間の延長

問 13.教育改善プロセス(PDCA)で考えられること

(1)教官側(担当者・テキスト・講義・テスト・評価方法等)

- ・教科書の内容をそのまま説明するのではなく、各教官独自の噛み砕いた表現で講義を進めていくべきだと思います。
- ・画一的な評価基準では難しいかと思います。それぞれの講義を他の教官にも聴講してもらうとか、むしろ専門外の教官にも意見を求めるとかできてもいいと思います。テキストは基本的なもので、講義は教えるより興味をもってもらえる内容でいいと思います。評価そのものを気にした講義は意味がないですし、学生の意見を講義やテキストにどのように取り入れるかの方法を考える必要があると思います。OBや院生に講義をさせてみるといった試みはできないでしょうか。その上で、学生主体での座談会を行うとかするのも良い気がします。
- ・いろいろ忙しいとは思いますが、まめに学生と意見を交わす姿勢が欲しいです。
- ・自らの経験では、ミニレポート、中間テスト等は教官側の負担は増えると思うが、そのような課題(ノルマ)があった方が最終的な理解度は高くなると思う。
- ・その講義の目的、学問的、社会的位置づけなどをはじめに説明した方がよい。
- ・学生からの評価をもっと重視し、給与へも反映すべき。学生にもものを教えようとする姿勢が見えない

(2)学生側(モチベーション・学生アンケート等)

- ・講義だけでは理解は不可能です。インターネット、市販の参考書等で自分が理解できるような情報を自ら仕入れることが大切です。
- ・やはり、受身の講義姿勢ではなく、自分たちがやりたい、知りたいことをやってもらえる講義にしてあげられるのが良いと思います。どのようにして意見を吸い上げるかが難しいとは思いますが、上述のような方法で少しでも学生が意見を出しやすい雰囲気を作ることが大事かと思います。また、アンケートなども教官が項目を出すよりも、学生がアンケート内容を作るなどの試みもあってよいと思います。
- ・学生のモチベーションを高めるためには、成績優秀者表彰等の制度は有効であると思う。
- ・真剣に講義に挑む。
- ・一回のテストだけで評価するより、簡単なレポートを複数回出した方が、学生は勉強す

と思う。

- ・自分自身でP D C Aを組み立てることができる力をみにつけるべき。

大学院で受けた教育

問 14.大学院での教育：大学院での教育は、ほぼ全員が評価 4 と 5 としており、一応合格ラインにあると言える。

(1)院への進学は役に立ったか

(2)良かった点

- ・化学的、専門的知識を深めることができました。
- ・より自分がやっている研究への興味が増し、結果的に現職に就くきっかけとなりました。
- ・研究に対して自分自身で問題点を見だし、解決するための手法が学べたこと。
- ・卒論で学んだことをさらに深堀することができた。学会発表などでプレゼンテーションの重要さを学ぶことができた。文献調査、留学生との交流で英語力が向上した。入社時には TOEIC のスコアで上司に褒められた。
- ・卒業研究とは違い、2 年間というスパンでじっくり研究が行えたこと。
- ・研究室で後輩をもつことで、人間的に成長できた。
- ・研究者としての基礎を作ることができた（論文執筆など）

(3)改善すべき点

- ・各自専門的になっていく中での講義は難しいと思いますが、基礎的な部分は必要ですし、逆に広く浅くでもいいのかもしれませんが。大学院に進む程度の学生ならきっかけを与えて自分でその先を学ぶ手助けになっていれば良い気がします。むしろ英語やプレゼン（相手にわかりやすい資料のまとめ方、PC の使い方、話し方）に関する講義、学術誌や先端研究の紹介などの講義があるのも良いと思います。
- ・実社会で役立つことも重点的に指導して欲しい。
- ・これからはグローバルな時代なので、英語のプレゼンなど学生の将来を見据えた指導をお願いしたい。
- ・視野をひろげ、自分の研究に生かすために学内の農学部や医学部での講義を聞いてみたかった。
- ・専門的すぎる講義があった。

大学での学生生活

問 15.クラブ・サークル活動

(1)活動の経験：2 / 3 の多数が経験している。

(2)役に立ったか：経験者のほとんどがほぼ有益としている。

(3)特に役に立った体験：多くあるが 7 件あげる。

- ・人間関係を円滑に進めることを学びました。青春でした。
- ・学部を超えた横の繋がりをもてた。学業以外の知識が身につき、就職後も役に立ってい

る。

・団体生活での人間関係の築き方。役員をやった経験から人をまとめる難しさ。同じ目標に皆が力をあわせる喜び、楽しさ、辛さも学びました。社会でも確実に役立ちます。

・個々の人間が有する能力を団体で発揮することの難しさ、(10×10人=100にはならない点)を経験したこと。同じ長所を持った人間ばかりでは、団体としてのバランスが悪くなることを学んだ。

・学生生活6年間で得たサークル活動で、サークルの主将にもなり、会社の入社試験でアピールできた。

・チームワークとリーダーシップ

・卒業後もつきあえる友人ができた

問 16.アルバイト活動等

(1)活動の経験：大多数が経験している。

(2)役に立ったか：ほとんどが3ランク以上の評価をしている。

(3)特に役に立った体験：多くあるが8件をあげる。

・基本的な挨拶等のヒトとの接し方

・人のために役立つ、喜ばれる実感、そして労働する苦勞とそこで得られるお金のありがたみを学びました。

・土木作業員などの肉体労働。労働の大切さを体験できた。但し、特に無理してアルバイトする必要はないと思います。

・食品製造工場における交代勤務、品質管理に対する姿勢を見た経験。

・サービス業を経験し、相手の気持ちがわかるようになった。組織として行動できるようになった。

・家庭教師のアルバイトで得た人と人との信頼関係。

・「労働」に対する「対価」の実体験の有無は実社会において重要 銭湯の風呂掃除を6年間行った。住んでいた下宿先には風呂がないが、そのバイトを行う事で、バイト代を入手し、かつ銭湯の入浴は無料だった。

・大学では学べない仕事の段取りの付け方や金銭感覚を学べた

卒業後

問 17.大学のホームページへのアクセス(<http://ace.cen.kagoshima-u.ac.jp/>)

(1)大学HP(インターネット)への利用：半数程度が経験している。

(2)大学HPの良い点

・リンク連携、配色、配置など一般的なレベルをクリアしている。

・入試情報や、研究室の研究内容についての情報が得られた。

・今回初めて拝見しました。大変出来栄が良いと感じました。

(3)改善すべき点

・もっと企業を意識したHP作りが必要と思う。

- ・もう少し研究内容や成果を公表するページがあったらよいと思います。
- ・研究・産学連携の研究者総覧を良く見るが、検索に時間がかかる。
- ・例えば、Eラーニングのように、授業からの宿題をネットを通して学生に出題する。
- ・大学の特色がみられない。鹿児島の特徴を生かした研究成果なども積極的にアピールすべき

問 18.他大学学科卒と比較して：教育上と行動上で回答してもらったが、これらのことは回答者の個人的体験と関わっていることが明らかな回答となっている。目立ったものをあげる。

(1)教育上

- ・どうしても地方ということで、他大学や企業、公的研究機関との交流が少ないのは否めないですし、学会やセミナー等へも参加できない点もあります。中央に近い大学は卒論研究等で企業や大学、公的研究機関と共同研究したり、相手先で研究したりしているし、学会への参加も積極的に参加しており、人脈も経験も豊富です。しかし、教育内容そのもので劣っていると感じたことはありません。
- ・九州大学卒の人などと話していると「きれいなー」と思うことがあります。
- ・本人次第だと思います。差がある場合もある。
- ・同等だと思います。卒論、修論を通して、他の化学系学科出身よりも多くの化学の知識を学べたと思います。
- ・最終学年でついた教授による影響が大きいと思います。
- ・県内や九州内で収まっているケースが多い。
- ・学力レベル、自分の研究に対する探究心等で劣ると感じる事もある。
- ・関東等、都会の学生と比べると学会聴講等の機会に恵まれない点はあると思います。

(2)行動上

- ・協調性，積極性は高い。
- ・上記の理由もあって、人脈が少なかったり、公の場での経験が少なく引っ込み思案になってしまう傾向があると思います。
- ・とはいえ、鹿児島大学卒ということで、恥ずかしかったとかは全然無いですし、むしろ行動的で活発だと思います。
- ・他大学との交流がある都心部の大学に比べ、他人との交流という点で、積極性に乏しい面がある。
- ・鹿大は学内がのんびりしているムードがある。
- ・ものすごく酒を飲むと思われるので困ります。
- ・一生懸命学習する人と、そうでない人が二極化している。
- ・個性やこれまでの取組の差だと思っているので、他大学卒と比べたことはない。
- ・特に差はないと思います。個人差の方が大きくこの観点の比較は難しいです。

問 19.全般的な評価：満足度での評価では全て評価 3 以上で、評価 4 が最も多い。

問 20.特に社会人として重要と思うこと、後輩に伝えたいこと等：多くの人からメッセージ

があった。7件ほど抜粋する。

・1) 社会人になっても夜型の人が多くなったが、朝型に早く切り替えること。2) 金を払って授業を受けるのと、仕事をして給料を貰うことの違いを自覚する必要がある。学生気分がなかなか抜けられないようである。3) 自己中が多くなった。社会や周囲の人に奉仕する気持ちをもう少し持って欲しい。4) 大学でならったことが役にたたないのではなく、役立てようとする姿勢が足らなかつたり、習った事を忘れていることの方が多い。

・将来必要と思われる国家資格はなるべく学生のうちに取得するほうが良いと思う。社会人になると意外にゆっくり勉強する時間がとれません。

・“大学時代にやればよかった”と後悔しないように多くのことにチャレンジしてほしい、自分のビジョンを持った社会人になってほしい。

・正直地方大学として不利な点は多々あるかと思いますが、学べることは自分自身で見つけられるので、むしろそのハンデをバネに頑張っていければ、決して社会人になって差を感じることはないです。自分で考えて自分の責任で行動できるようになるために大学時代はあると思います。結局は先生方からどのように教えてもらったかではなく、それをどう理解し、活かすかの方がよほど大事です。

・卒業時の研究が役に立つことは稀ですが、その中で学んだことや、一緒に学んだ仲間たちが一生つきあえる仲間となりますので大切にしてください。

・私は、鹿児島大学工学部の応用化学工学科を卒業したことを誇りに思っています。素晴らしい先生方や先輩、同級生、後輩に恵まれました。若輩ながらも思うことはやはり学校も会社も人が大切です。これからも鹿児島大学がますます発展するように、私もこれからも精一杯努力する所存です。

・教育自体は先生によってまた研究室によって様々かと思いますが、一律である必要はないと思います。分野による違いもあると思いますので。結局は学生自身がその気がなければどんなに良い先生、授業、設備、研究テーマがあっても意味がないでしょうし、表現は悪いですが、そこそこの内容でも本人がその気があればどのようにでも活かしていくものだと思います。むしろその活かしていける力をつける指導が大事で、きっかけをあたえる指導、興味を抱かせる指導が重要かと思います。また、自分で考えたことを実践させてあげられる余裕(時間的にも金銭的にも)は必要です。私自身は在学中にそのように指導していただいたことを非常に感謝しております。また、そのような学科の雰囲気作りも大事だと思います。研究室間の交流、学科間の交流、学年間の交流、OBとの交流、他大学や他の研究機関との交流は大切です。私も在学中に他大学の学生や研究者の方と交流する機会があり、非常に刺激になりました。専門以外の繋がりや話しをする機会も重要だと思います。また私の在学中の応用化学学科の雰囲気は非常に良く、今でも自分の研究室の先輩後輩だけでなく、他研究室の先輩後輩とも交流があります。このような雰囲気の学科は他大学でもそうそうあるものではないと思っていますし、そのような応用化学学科を卒業していることを私は非常に誇りに思っております。

アンケート依頼文(1)

平成 18 年 3 月 3 日

応用化学工学科応用化学コース
卒業生各位

鹿児島大学工学部応用化学工学科
JABEE(応用化学コース)対策委員会
委員：青柳隆夫、門川淳一、鮫島宗一郎、下茂徹朗、染川賢一(委員長)、肥後盛秀

拝啓 時下益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

さて、この度鹿児島大学工学部応用化学工学科応用化学コースでは、私共がかねて改善に努めている応用化学に関する教育が、JABEE(日本技術者教育認定機構)が掲げている教育方針の「化学および化学関連分野」の応用化学コース教育に認定されることを求める、認定申請を行うことと致しました。目下平成 18 年 11 月実地審査(予定)のためいろいろの資料を揃える作業を行っております。

つきましては、貴方様には当コース時代の感想とその後のご意見等をアンケートで回答頂き、教育の向上にご協力下さるようお願い申し上げます。具体的には貴方様のメールアドレス(会社も可)を、出身研究室のメールに送って下さい(例：有合、有工出身は some@apc.kagoshima-u.ac.jp)。質問アンケートを送り、回答して頂き、集計します。当然ながら回答された個々の回答例が引用されることはなく、すべて統計処理された形で用います。本件に関することはホームページ(<http://ace.cen.kagoshima-u.ac.jp/>)を参照下さい。また解析結果報告にもこれを利用するつもりです。

整理の都合上、貴メールアドレスのご回答の締切をおよそ 3 月 23 日(水)とさせていただきます。

ところで当応用化学コースは、前身の応用化学科が、近年の本学と工学部の改組発展により化学工学科の増設と再合併、生体工学科の増設そして大学院ナノ構造先端材料工学専攻の発足(平成 14 年 4 月)(完成平成 17 年 3 月)等に大きく寄与してきました。現在応用化学コースの学部教育は主に専任教官 6 名と併任教官(ナノ専攻)7 名で担当し、化学工学コース(教官(9 名))へも協力しています。

化学工学コースは平成 16 年 11 月 JABEE 実地審査を受け、平成 17 年 5 月認定されました。

以上アンケート実施につき宜しくお願い致します。

未筆ですが貴方様のご健勝にての日々を念じ申し上げます。

敬具

有工・有合系：some@apc.kagoshima-u.ac.jp 分析系：higo@apc.kagoshima-u.ac.jp

無機系：samesima@apc.kagoshima-u.ac.jp 高分子系：aoyagi@eng.kagoshima-u.ac.jp

アンケート依頼文（２）

新年度をひかえ、健やかにご精励のことと察します。この度は母校応用化学コースの JABEE（日本工業教育認定機構）に関わる教育関係アンケートにご協力の連絡を頂き有難うございます。

アンケート内容を手紙文とともに添付します。何かとご多忙の折ですがご回答を 4 月 15 日頃までよろしくお願い致します。

なお JABEE についてはこの文字でそのホームページを開くことも出来ますが、当工学部応用化学工学科のホームページ等にも記しております。

このようなことで教育の改善に努めております。同窓会を通じてなどご協力ご支援のほどお願い致します。

末筆ですが益々のご壮健にての日々を念じます。

JABEE（応用化学コース）対策委員会

アンケート内容

卒業生へのアンケート（鹿児島大学工学部応用化学工学科応用化学コース）

	質問項目	質問内容
個人属性	学部	(1)氏名 ^{*1} (2)学部卒業 昭和・平成 年3月(9月) 学科名
	大学院	博士前期課程修了 昭和・平成 年3月(9月)
	博士課程	博士号取得年 平成 年3月(9月)
大学卒業後に受けた教育（鹿児島大学以外）	問1 大学院の教育 専門学校等	(1)教育機関名 (2)最も役に立った教育
就職活動	問2 就職情報（活用した情報の種類）	該当する項目の番号：（例 番号：1） 1. 学科の紹介 2. 学科以外の紹介（インターネット・HP-ワーク等募集） 3. 縁故採用 4. その他 （ ）
	問3 学科の就職担当教官の就職活動支援	(1)支援が十分だったか：5段階評価、該当する番号： （十分）5 4 3 2 1（不十分） (2)良かった点 (3)改善すべき点
	問4 全般	後輩へのアドバイス
大学で受けた教育	問5 人文・社会系	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： （有益）5 4 3 2 1（無益） (2)特に役に立った科目 (3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目
	問6 自然系 （化学以外）	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： （有益）5 4 3 2 1（無益） (2)特に役に立った科目 (3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目
	問7 専門関係	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： （有益）5 4 3 2 1（無益） (2)特に役に立った科目 (3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目

	問8 語学系	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (2)特に役に立った科目 (3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目
	問9 コンピュータ系	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (2)良かった点 (3)改善すべき点
	問10 学外実習・工場見 学(参加した場合 のみ記入)	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (2)良かった点 (3)改善すべき点
	問11 卒業研究	(1)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (2)良かった点 (3)改善すべき点
	問12 各教育施設	(1)情報処理施設： ・良かった点 ・改善すべき点 (2)実験設備： ・良かった点 ・改善すべき点 (3)図書館： ・良かった点 ・改善すべき点
	問13 教育改善プロセス(PDCA ^{*2})で考えられ ること	(1)教官側(担当者・テキスト・講義・テスト・評価方法等) (2)学生側(モチベーション・学生アンケート等)
大学院で 受けた教育	問14 大学院での教育 (進学者のみ記 入)	(1)院への進学は役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (2)良かった点 (3)改善すべき点

大学での 学生生活	問15 クラブ・サークル 活動	(1)活動の経験は、 有 無 ……有の方は(2),(3)にお答え下さい。 (2)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (3)特に役に立った体験
	問16 アルバイト活動等	(1)活動の経験は、 有 無 ……有の方は(2),(3)にお答え下さい。 (2)役に立ったか：5段階評価、該当する番号： (有益) 5 4 3 2 1 (無益) (3)特に役に立った体験
卒業後	問17 大学のホームページへのアクセス (http://ace.cen.kagoshima-u.ac.jp/)	(1)大学HP(インターネット)への利用は、 有 無 (2)大学HPの良い点 (3)改善すべき点
	問18 他大学学科卒と比較して	(1)教育上 (2)行動上
	問19 全般的な評価	満足度：5段階評価、該当する番号： (満足) 5 4 3 2 1 (不満足)
	問20 特に社会人として 重要と思うこと、 後輩に伝えたいこと等	
スペース不足のときここを利用下さい。		

*1ご氏名を公表することはありません。教育改善のためあるいは再度ご質問をさせて頂くことがあるかもしれません。宜しくお願い申し上げます。

*2PDCA：P(Plan：企画)-D(Do：実施)-C(Check：評価)-A(Action：改善)のサイクル

アンケート回答結果（集計）

卒業生へのアンケート回答結果（鹿児島大学工学部応用化学工学科応用化学コース）

	質問項目	質問内容				
個人属性	学部	(1)氏名 ^{*1}				
	卒業年次 (延回答数)	(2)学部卒業 計 88人(延) 昭和50(1) 昭和60(1) 昭和61(1) 昭和63(2) 平成1(1) 平成2(2) 平成3(1) 平成4(6) 平成5(1) 平成6(9) 平成7(3) 平成8(6) 平成9(4) 平成10(2) 平成11(2) 平成12(2) 平成13(6) 平成14(9) 平成15(5) 平成16(7) 平成17(5) 平成18(12)				
	大学院 修了年次 (延回答数)	博士前期課程修了 計 59人(延) 昭和52(1) 平成2(2) 平成4(2) 平成5(1) 平成6(5) 平成7(1) 平成8(9) 平成9(3) 平成10(5) 平成11(2) 平成12(2) 平成13(2) 平成14(1) 平成15(5) 平成16(6) 平成17(4) 平成18(7)				
	博士課程 修了年次 (延回答数)	博士号取得年 計 8人(延) 平成9(2) 平成11(1) 平成12(2) 平成13(1) 平成18(2)				
外教育 (大学卒業後 鹿児島大学に 受けた)	問1 大学院の 教育 専門学校 等	(1)教育機関名 ・関西大学大学院工学研究科(社会人博士課程) ・広島大学大学院 ・九州大学大学院 ・九州大学大学院総合理工学府物質理工学専攻				
		(2)最も役に立った教育 ・物性、モルフォロジー ・機能性材料の研究 ・機能材料概論				
就職活動	問2 就職情報 (活用した 情報の 種類)	1.学科の紹介	1	2	3	4
		2.学科以外の紹介(インターネット・HPワーク等募集)	46	17	0	9
		3.縁故採用				
		4.その他 ・担当教官の紹介(2) ・ある意味では学科の紹介かもしれませんが、私の場合は就職担当教官からではなく、前田滋先生より紹介していただきました。 ・指導教官による紹介 ・染川先生(担当教授)のご紹介 ・染川先生のお力で ・各種地方公共団体広報誌等 ・知人の紹介 ・研究内容の紹介				

問3 学科の就職担当教官の就職活動支援	(1)支援が十分だったか：5段階評価 (十分) 5 4 3 2 1 (不十分)	5	4	3	2	1
		21	19	14	7	3
(2)良かった点						
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・教授からの推薦が受けられたこと ・適宜適当な就職先を紹介して頂きました。 ・企業動向の知識不足に対する適切な助言を頂き、今後の進路を決める上で心強かった。 ・先輩社員への働きかけ ・親身になってお世話をしていただいたこと。 ・就職活動に時間をあまり取られなかった。 ・親身に会社を探して頂いた。 ・個別の面談等による進路指導があった点 ・学科の紹介ではすぐに対応してもらえた点。 ・染川先生からのご紹介でしか就職活動をしていないため、学科単位での就職活動に関する記憶はあまりありません。 ・指導教官からの推薦状とともに学科推薦をいただきすぐに希望の会社に連絡を取っていただき面接できた。 ・紹介していただいたので。 ・気にかけてくれて様々な会社を紹介してくれた点。 ・学生本人の意思を尊重して下さった点。 ・求人票の情報や推薦状の対応が早かった。 ・過去の経験談やアドバイスをいただいた。 ・やる気を考慮して推薦して頂いた。 ・他学科より手厚い対応であった。 ・教授推薦がいただけた。 ・就職担当教授が企業と連絡を取ってくれた。 ・自分の就職希望先の推薦状を先-デーに出してくれた。自分の希望する条件に適合する企業を具体的に紹介していただいた点 ・就職に関して気にかけて頂いた・受きたい推薦試験があったら、即座に企業に連絡してくれた。 ・遅滞なく情報提供 ・対応いただいた点。 ・受きたい会社へ迅速に連絡を取って頂けた。 ・すばやい対応・概要だけでなく、面接な詳細まで教えてくれたこと ・フォローまでしていただいた ・担当教官が直接就職先に出向いてくれたこと ・学部については就職に関する情報は充実していた ・親身に相談に乗って頂いたので相談しやすかった ・相談には非常に親身になってくれた ・資料が適切だった ・親身に相談に乗ってくれた。困ったらいつでも頼るように指導してくれた。 ・担当教員が親身になって相談してくれる。 ・面接時に具体的なアドバイスをいただいた点。 ・即座に対応していただいた点。 ・親身になって頂けた。 ・面接の練習やアドバイスを丁寧にしてくれた点。 						

	<p>(3)改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと早く就職活動すべきである（当時は第2次オイルショック時だった）。 ・情報の提供量の不足 ・話し合いの時間をほとんど取っていただけなかった。話し合いの時間が多くあってこそ、支援も可能になるではないでしょうか。 ・募集人数が限られている就職先に関して希望者の優先順位を決定する方法を明確にすることが必要だと思います。 ・私の時代と違い、最近は個人的に会社に接触する学生が多いと思いますが、話を聞き、学科に直接問い合わせがあるなしに関係なく、興味の対象となる会社を紹介してあげられたり、学生が興味を持っている会社や業界についての紹介、先輩等への問い合わせができるようにしてあげられれば非常に良いと思います。 ・受身ではなく、もっと積極的に活動すべき。 ・会社への案内社数が少ない。 ・早い段階（3年生）で就職活動の意識を持たせる必要を感じる。 ・自由応募の学生に対して特に何もなかった点 ・企業側へのアプローチの機会を増やした方がいいと思います。 ・特に無し。（我々の年は、内定率が異常に低かった。） ・学部学生にも積極的な支援が欲しい。 ・求人のできていない企業へも大学から学生を紹介すべき。 ・学生への支援を促すタイミングが遅い。 ・学校推薦を利用しないものに冷たい。 ・他大学に比べ、就職活動の開始が遅い感じを受ける。 ・大学の紹介ではなく、個々人が行きたい会社を自分で探すべき ・「学校推薦」があると次が受験できない制度はない方がいい ・もっと早くから就職活動の必要性を話したほうが良い。 ・推薦がきている会社などはメールなどで連絡してほしい。（就職担当教 ・推薦書の記入以外に、担当教官の支援内容を明確にして、学生にアナウンスしてほしい。 ・就職活動生に対して一度面接を行って欲しい。 ・ドクターコースの就職あるいはポスドク斡旋については、教官の人脈などを駆使して積極的に紹介すべき。そのためには、他研究機関・大学などにアピールできる博士後期課程卒業生の研究成果と教官の責任ある研究指導が求められる。 ・修士・博士課程は情報不十分だと感じた。支援に関しては主に所属研究室がメインだった。 <p>当時。就職活動で学科にお世話になったことはありませんが、就職活動におけるノウハウやめんせつの練習などもっと親身になって学生を支援すべきだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦は早い者勝ちという傾向をもう少し改善できないだろうかと思った。 ・地方に位置しているという不利な点を支援する対策が必要。 ・教官によって支援の仕方が異なる。教官間で支援の仕方について情報交換すべき。学校推薦で内定がでたら必ずそこに行く条件で自由応募を平行して受けさせた方がよい。 ・私が担当していただいた先生以外はあまり親身になって頂けないという話を聞きました。
問4 全般	<p>後輩へのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部の大学と比べて就職活動の開始が遅い。交通費の問題もあるが、もっと早く活動すべきである。 ・出来るだけたくさんの情報を収集し、最も自分に適した会社を選ぶことが必要だと思います。 ・根気強く。会社はインターネットの情報だけでは分からないので、会社に一度は足を運んでみるべき。本命以外にも様々な会社の面接を受けたら参考になると思う。

- ・1 - 2社の就職試験がダメでも自信をなくさないこと。本命の試験の前いくつか面接等の経験をつんでおくのがよい。
- ・関東等の都市圏へ就職を希望する場合は、地方の学生は情報収集等において大きな差があるので、早めに動いて情報収集しないと遅れをとってしまうことに。
- ・自分をアピールする手法を身につけてください。
- ・諦めなければ何らかの道が開けます。
- ・企業名や規模のみにこだわらずやりたいこと、興味のあることができるかも加味すると良いと思います。
- ・なるべく早く活動したほうが良いと思います。
- ・社会に出ると、賢さや、成績優秀さでは無い。人間性の高さ（コミュニケーション性）である。
- ・早く自分のやりたいことを見出し、早めに就職活動を開始することを勧めます。
- ・早めの情報収集が必要。とくに地方の大学は就職活動が遅い。理系の学生は研究が忙しいので大学に来ている推薦等はできるだけ活用した方が、本人にとってもその後の後輩にとってもよいと思う。
- ・近年ではインターネット限定の募集もあるようなので、様々な情報源を最大限に活用してほしい。
- ・会社の規模や事業内容だけではなく、給与体系、手当など福利厚生面もチェックすることを勧めます。
- ・遠隔地からの在 student で、卒業後地元に戻らざるを得ない人は、とにかくマメに帰省の上、現地で活動しなければ駄目です！
- ・「入社して自分にはこれができる、自分はこの研究で会社に貢献できる」という意識を強く持って、就職活動すべきだ。
- ・教官に頼るのでなく自ら積極的に活動するのが望ましい。
- ・指をくわえて待っていても、自分の希望就職先は目の前に現れません。自ら積極的に活動することが大切です。そのためにも、一日も早く、どの分野で自分は仕事をしたいのか？を決めることが大切です。
- ・とにかく希望の就職先の研究を行い、自分が何をしたいかと現状何ができるかをはっきりと述べるのが大切だと思います。
- ・情報だけでなく実際に自分の目で見て判断すること。
- ・最近ではインターネット等により企業情報を調査し易い状況であるが、肝心な点は教官からのアドバイスを有効に活用してください。
- ・自己表現をうまく。
- ・やりたいことがあったら、遠回りしてでもチャンスを狙うべき。
- ・興味ある分野への推薦があれば、積極的に活用するべき。
- ・早期に就職活動を開始すべき。
- ・会社研究は重要。教官との連携を密にとるべき。
- ・会社への自分の熱意が伝わるかどうかにかかっているので、自分の夢や将来を明確にしておくこと。社会人になる自覚を持ちましょう。
- ・会社からの給与で暮らしていることを忘れないように。
- ・自動車・工具業界が景気がいい。積極的に行動することが大切です。
- ・就職しようとする企業または、その企業の就職試験を受けた経験のある先輩からは、特に情報収集をすべきです。
- ・卒業生の企業へ入ることは否定しないが、自分の行きたい会社を自ら探すべきで、大学はその援助をすべきだと思います。
- ・長続きする為に自分がやりたいと思った仕事に就くべき・4年生からでは遅いです。
- ・やりたい仕事と自分の適正を早く見極めたほうがいいですよ。
- ・適度に悩むべし。
- ・何事も自分を信じる道に向かってがんばってください。
- ・自分のやりたいこと、持ち味をしっかりとアピールできれば希望は叶うと思います。
- ・面接は重要です。質問者の意図をくみ取って的確に答えることができるようにしてください。（声を大きく話ができることも大切です）
- ・気合
- ・積極的に動きなさい。
- ・結局自分自身が頑張らないと駄目。先生方を頼りにし過ぎるのもよくない。
- ・早めに行動。
- ・頑張ってください。
- ・じぶんは何をすることで社会に貢献したいかを見極め、自分がやりたいと思う研究分野に進んでください。

- ・当時。就職活動で学会にお世話になったことはありませんが、就職活動におけるノウハウや面接の練習などもっと親身になって学生を支援すべきだと思います。
- ・いきたい会社は早めにチェックして、先生に申し出ること。
- ・今は自由応募などが主と聞いており、ものすごい「社」-をかけないといけないようですが、受かってからがスタートですので是非めげずに志望する会社に入ってほしいです。
- ・地方は、中央の大学に比べ、初動が遅れがちになる、早い段階から就職活動を意識してほしい。
- ・会社のネームバリューやイメージ、HPやパンフの紹介だけで会社を決めるのではなく、いろいろな情報や自分が将来やりたいことをよく考えて決めたい方がいいです。自分もそうでしたが、一般的には知名度がなくても、技術としても環境としても素晴らしい会社がいっぱいあることは社会人になってから知ります。
- ・その場しのぎの就職活動はやめた方がよい。将来を見据えてください。
- ・就職先選択は十分検討してください。所得・人生は就職先で決まります。
- ・根性・粘ること・謙虚な姿勢
- ・専門分野だけでなく、社会の動きをもっと知っておくこと。
- ・最近インターネットなどの活用も当たり前ですが大学・所属研究室の繋がりも会社に入ってから大切だと思います。利用できる情報はきちんと把握してください。

大学で受けた教育	問5 人文・社会系	(1)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
			2	17	36	20	7
		(2)特に役に立った科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育学、哲学、英語、世界史、倫理学、社会学、法律関係、経済学、経済学や法律学、経済学 ・心理学、日本国憲法 ・国際交流の科目 ・あまり記憶に無い ・特にどれということはないのですが、広く歴史や社会一般のことを知ることは、直接専門には関係なくても、社会人の知識としては非常に有益なことだと思います。 ・心理学、日本国憲法、職業人と実践倫理 ・鹿児島の自然と災害 ・日本民族学 ・日本国憲法 					
(3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目 <ul style="list-style-type: none"> ・国語、金融システムについて、中国・韓国の文学・風俗、政治・経済の基礎、教育実習、会計、マーケティング ・実経済しくみが分かるような科目 ・労働基準法などの一般的知識と約束を教育してくれる講義。 ・質問の意味が理解できないのですが、他の学科のカリキュラムにある科目とのことでしょうか？ 基本的に我々の教養時代には人文・社会系は学科に関係なく同様の科目を受講できたと思いますので、特にはないです。 ・法令、コンプライアンスに関する事項 ・世の中のお金の流れの仕組み（経理） ・MBA, MOT関連の科目 ・色彩関係、美術系 ・三国志の文学 ・心理学 							
	問6 自然系 (化学以外)	(1)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
			10	24	34	13	1

(2)特に役に立った科目

- ・応用数学、自然科学、数学、物理学、物理学実験、想像実験授業、実験科目、確率統計、生物学
- ・生物、統計に関する講義
- ・物理の実習
- ・物理実験、微分積分学
- ・地質学？鉱物学？
- ・物理、工学概論
- ・生物系の科目、環境系の科目
- ・工業数学、物理学全般、統計学、数学系、リサイクル関連、反応工学、物理科目
- ・線形代数、微分積分、物理学、ウナギの科学、人と病気の成り立ちと予防、きれいな環境とエネルギーを目指して
- ・生物学と人間
- ・森林基礎講座（集中講義）
- ・医療系の科目

(3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目

- ・機械工学（企業における設備の維持・保全上）
- ・品質管理、幾何学、代数学、食品化工
- ・質問の意味が理解できないのですが、他の学科のカリキュラムにある科目とのことでしょうか？ 基本的に我々の教養時代には人文・社会系は学科に関係なく同様の科目を受講できたと思いますので、特にはないです。
- ・当時は教養での生物系の科目が少なかったと思う。
- ・物理学全般は、修士・博士課程でも受講すべき。
- ・植物系工業材料の開発
- ・自然環境に関する科目
- ・生物工学に関する倫理
- ・薬学系
- ・地球の科学
- ・自然災害に関する科目

問7 専門関係	(1)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
		27	35	12	3	1

(2)特に役に立った科目

- ・高分子化学、無機工業化学、有機化学
- ・機器分析
- ・高分子化学全般
- ・有機化学特論
- ・分析、有機化学に関する講義
- ・物理化学、分析化学
- ・スペクトルゼミ
- ・図学、材料力学
- ・分析関連
- ・分子生物学
- ・学生実験
- ・無機化学講座、有機化学講座
- ・物理化学
- ・化学系科目全般（特に有機化学）
- ・有機工業化学、分析化学
- ・光化学、物理化学演習、化学実験、分析化学、無機化学、卒論研究のテーマ
- ・無機工業化学等の無機化学全般、輸送現象、化工全般、無機材料化学(平田先生)、熱力学、無機化学、分析科目、分析、反応工学、無機化学、無機材料化学
- ・物理化学関連科目
- ・反応工学

- ・実験全般
- ・化学工学、生化学
- ・分析化学、化学計測、物理化学、化学工学基礎、無機化学基礎、有機化学基礎、物理化学基礎
- ・一般的に
- ・無機材料設計
- ・微粒子の物理化学、無機化学
- ・工学英語
- ・細胞生物学 ・化学実験

(3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目

- ・統計工学（実験計画法）
- ・高分子物性
- ・知的財産権
- ・私の職場（研究所）でもそうですが、これまでの分野的な境界線がひき難い研究が多くなっておりまして、それが大事でもあると思いますので、融合領域的科目、例えば生物無機化学のような講義や薬学的な講義、その他に理学部、農学部、水産学部、医学部との連携的な講義があると良いと思いますし、大変難しいと思いますが、各学部の講義も受けられるようなシステムがあると良いと思います。
- ・図面の書き方は化学系でも勉強した方がよいと思う。
- ・進路指導
- ・統計学、量子力学、ナノ材料、電気関係、研究室の体験期間があった方がいい。
- ・企業での開発状況等、産官界の研究開発等を教える講義。
- ・有機化学や、無機化学といった各分野および研究室が現在取り組んでいる研究の概要に触れるような授業があればよいとおもいます。
- ・QC7つ道具 ISO9001 ISO14001
- ・熱力学、量子化学、固体物理、錯体化学、中国語
- ・生化学
- ・生物系の実験

問8
語学系

(1)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
	5	25	35	14	7

(2)特に役に立った科目

- ・企業に就職しても海内特許や文献調査（英語）は必要
- ・英語
- ・英語（出来ない為、あまり役には立たず）
- ・特定の講座名は忘れましたが、ほぼ全部の科目が専門的知識をつけるのに役立ちました。
- ・化学英語
- ・応化輪講
- ・ドイツ語
- ・専門の化学英語くらい。
- ・工業英語
- ・仏語、研究室でのゼミ
- ・工学英語
- ・化学英語。指数や分数をどのように発音するか等を学んで就職後役に立ちました。
- ・応化工英語、専門英語
- ・オーラルコミュニケーション

(3)カリキュラムに無いが、受講が望ましい科目

- ・ドイツ語、インド語、少人数での英語によるディスカッションなど。
- ・英会話
- ・韓国語
- ・中国語
- ・ネイティブ講師による化学英語
- ・英会話等のコミュニケーション関係
- ・化学英会話
- ・工業英語（カリキュラムに有るかどうかわかりません）
- ・極端かもしれませんが、基本的に英語以外は本人に興味があればあって、職種に関係なく英語は最も重要と思います。
- ・取引先がアジアが多いので、広東語とかハングル語とか。でも入社してみないとわからないですね。
- ・英語のヒアリング、会話に特化した科目があると良いと思う。英語論文の書き方指導の機会もあればよいのではないかと。
- ・イタリア語
- ・専門英語（特に、論文を書くことを目的とした授業）
- ・英語でコミュニケーションをとるような講義
- ・TOEIC等の各種資格試験対策又は、英会話中心の講義・英会話、TOEIC対策
- ・英語によるプレゼンテーション
- ・少人数制の英会話
- ・高校の延長のような授業は必要なし。TOEIC、英会話に重点を置いて欲しい。

問9
コン
ピュータ
系

(1)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
	8	10	31	23	7

(2)良かった点

- ・特になし
- ・当時はまだ普通にPCに接する機会がある時代ではなかったので、そういう意味では良かったです。
- ・まだマックが珍しい頃でなかなか触れられないので。
- ・BASICの考え方はEXCELの関数を入力する基礎であると思う
- ・プログラミングの基礎を理解することができた。
- ・基礎的なプログラミング、操作が学べた。
- ・一人一台のパソコンを使用し、講義をしていただいた点。
- ・パソコンの取り扱い入門になった。
- ・仕事で活用できた。
- ・PCの基礎を理解できた。
- ・BASIC言語を学べた。
- ・プログラミングの初歩が学べた。
- ・パソコンになれることができた。
- ・大型コンピュータの取り扱い。
- ・当時、BASICの基礎が理解できた
- ・基礎は学べた。
- ・パソコンの知識が増えた。
- ・EXCELの基本を学ぶことができた
- ・基礎的な知識から習得できた
- ・プログラムについて学ぶ機会があったこと。
- ・資格試験もとれる科目があった。
- ・エクセル、ワードの使い方を学んだのでデータ整理に役立った。
- ・演習形式であった点。
- ・パソコンの基本操作を学べた。
- ・パソコンについての基礎知識がついた。
- ・簡単だった。
- ・プログラムを組むこと
- ・エクセルの使い方が分かった
- ・プログラミング

(3)改善すべき点

- ・当時、WINDOWSはなかった。
- ・コンピュータ系の科目は無かったように思います。
- ・プログラミングよりもエクセル・ワードといったソフト操作を習得した方がいいと思います。
- ・実社会で使えるコンピュータの講義をしていただきたい。
- ・自分の目指しているレベルからすると不満足であった。
- ・当時はまだ今のようなPC環境ではなかったので、いたしかたありませんが、今の時代は表計算（エクセル）ワープロ（ワード）、プレゼン（パワーポイント）などが使えることが社会人の基本かと思えます。ソフトはいろいろあると思いますが、基本的なソフトでの実践教育をするべきだと考えます。
- ・データの解析の仕方など（今は教えているのでしょうか）
- ・現在では、化学系でもネットワークに関する知識をもう少し教育する必要があるのではないか。
- ・当時はプログラミングなど実践的ではなかった授業だった。
- ・原理よりも、使えるかどうかがまず重要ではないでしょうか。
- ・当時は台数、年式が古かった。
- ・ウイルス対策など社会に出てからの法令順守。
- ・プログラミング等の講義を行うよりは、word, excel, mailなどの活用法を教える方が良くと思う。
- ・もっといろいろな活用法を教えて欲しかった。
- ・Excel、PowerPoint等の講義が欲しかった。
- ・一般的に。講義のレベルが低い。
- ・当時受講したBASICは、化学屋の私としては使用する機会がない。それよりはWINDOWS等のパソコンの使用法等についての講義があれば良い。・基本的なC言語や、プログラミングを書けるように授業内容を改善していただきたいです。
- ・プログラムの基礎を必修に。・最低限の概要を学ぶための講義があった。
- ・研究室・就職してから実際に役に立つようなことを実施したほうがよい。
- ・化学系の学生が受講した場合、どういう就職先でどのようなことをする場合に役に立つのか、明確にするべきではないでしょうか。
- ・現状でよい
- ・時代の流れが速く、習ったことが陳腐化した
- ・1, 2回程度しか授業がなかった
- ・シスアドなどの資格取得対策も考慮された講義が必要
- ・プログラミング演習は初歩しかやらないので、意味がない。やるならプログラミング演習2があってもよい。講義だけのものは演習を入れるべきである。
- ・もっと実践的な講義をして欲しい。
- ・役立つかは疑問。
- ・実践的な内容にして欲しい
- ・デルファイなどは専門的に使う人だけすればいいと思う。使わない人はいらないうと思う。
- ・身についた力を維持しにくい

問10 学外実 習・工場 見学（参 加した場 合のみ記 入）	(1)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
		27	17	10	5	1

(2)良かった点

- ・企業における仕事の内容，手順が少し判った。
- ・先輩の生の話を聞いたこと。
- ・就職前に実社会の雰囲気を実感できたことは有意義であった。
- ・実際に社会の存在する工場や実習は貴重な体験。
- ・ライン作業の経験
- ・就職のきっかけとなりました。
- ・大学内では知りえない生の現場を見学でき、先輩の話しを聞けること。
- ・会社はもちろんですが、あれで講座のメンバーの団結が一段と強まりました。
- ・工場見学ではじめてある製品を製造する工程全体を具体的にイメージできるようになった。

- ・会社の人と仕事の内容について話すことができた点。
- ・九州内の主要な工場を見学でき、企業の雰囲気を経験できたこと。今でも自分の中での企業のイメージのベンチマークとなっています。
- ・学生時代に、殆ど機会の無い企業の現場を見ることができた
- ・学生時に化学系メーカーのエンジニアと触れ合ったこと。
- ・実際のプラントを見ることができたこと。
- ・企業で実際にどのようにして研究・開発が行われているのかを肌で感じることもできた。
- ・実際の製造現場を見ることができたこと。
- ・普段見ることのない工場内部を専門的な解説付きで見ることができた。
- ・生産現場など、普段見られないシーンが見られた。
- ・興味が持てた。実製品の生産ラインを生で見学できた。
- ・学外実習を受けたことで、希望する職種の方々と直に接することができ、就職してからの自分をイメージすることができた。
- ・少しは見聞を広めることはできる。
- ・(工場見学で)ものづくりに対して興味を再確認できた。(と思う。)
- ・工場というものを体感できた
- ・実際に、化学系であればどのような仕事をするのかをみることもできた点。同級生と有効が深められた点。
- ・遠方に行く手間が省ける。教える側も熱心だった。クラスメートとの交流の場にもなった。
- ・会社で働いている人を生で見ることにより、社会人としての姿勢を見ることができた。プラントの規模や実際の装置が見られた。
- ・実際に働く人の声が聞けた。
- ・現場の生の声が聞けた。
- ・普段見れないところが見られた。
- ・目で見ることができた。
- ・実際に現場が見られたこと。
- ・工場などを実際に見ることで就職に向けてのいい刺激となった。
- ・会社というものにふれることができた。
- ・企業や工場を見学し、自分の将来について考えるきっかけとなった。
- ・工場の雰囲気や仕事の内容が理解でき、ためになった。
- ・現場にふれることができた。

(3)改善すべき点

- ・特になし
- ・学生の希望アンケートをとって工場見学場所を選定してもらいたい。
- ・団体・集団での工場見学よりも、個々に工場見学を行なう方が様々な面で以後役立ちます。
- ・時間もあまりないですが、1カ所の時間が短かったような気がします。
- ・より多くの企業への働きかけ
- ・相手があることなので難しいとは思いますが、もう少し研究的な箇所も含めて欲しいです。
- ・学外実習の機会がもう少しあった方がいいのでは。
- ・引率側の都合で訪問先が左右されることが多い(学生が受け身になっていることが多い)
- ・学生に就職活動の一環であることを認識させるような指導。
- ・九州以外の企業、特に関東の企業も見学の対象とした方がよいと思います。
- ・担当する研究室によって、見学する工場の内容等が違いすぎると思う。もう少し、分野を平均化するべきだと思う。
- ・就職につながる情報が欲しかった。
- ・半ば修学旅行と化していた。
- ・あまり深いところまでの説明がなかった。
- ・具体的な業務内容などの説明も必要。
- ・見学した企業のアンケートをとるべき。
- ・たくさん回るのではなく、1つか2つを時間をかけた方がいい。
- ・品質管理・危機管理などの生産以外の点も注目するとよい。
- ・入社したい業種にインターンとして仕事を体験できるようにしては
- ・学問との繋がりをはっきり認識させる様な教育側の努力。(過保護か?)
- ・現場の生の声をもう少し聞きたかった。
- ・他の企業も見たかった。

問11 卒業研究	5	4	3	2	1
		51	22	9	3

(2)良かった点

- ・就職してテーマそのものを継続するわけではないが、研究の進め方が観に付いた。
- ・先生方の助言を得ながら研究を行っていくことは、会社での仕事への姿勢に通じており、非常に勉強になった。
- ・一つのテーマにじっくり取り組めたことが良かったです。
- ・研究に対する取組方を学べた。
- ・度胸試しという点
- ・研究の考え方を学びました。
- ・自分なりに目標を立てて完結できたことは自信になった。
- ・化学反応に対する基礎的な考え方を習得でき、就職後も卒業研究で取組んだ経験を活かして、問題を捉えて解決まで持っていく方法論が学べた。
- ・合成手法の習得
- ・一連の研究は、現在自分の中の基礎になってます。
- ・論文発表できた点。
- ・あたえられた命題に対して、自力で解決する力を養うことが出来た。
- ・会社に入っても基礎知識として役に立った。
- ・仮説を構築する力とそれを検証する力を学ぶことができたこと。卒論作成を通して、文章構成力が身に付いたこと。
- ・創造性が磨かれたと思います。
- ・基礎的な実験の進め方、報告、発表技術を身に付けることができた。
- ・一生懸命できる環境であった事。
- ・準備期間が勉強になった。
- ・研究結果を文書化する経験。
- ・実験から論文作成、発表までの一連のノウハウを学ぶことができた。
- ・プレゼンテーション力をつけられたこと。
- ・研究の進め方、論文を書く心得を教えて頂いた。
- ・半導体に通じる薄膜研究、統計学の地盤が勉強できた。
- ・研究のなんたるかが多少分かった。
- ・一つのテーマを時間をかけてできた。
- ・物事の論理的思考や内容をまとめる能力が役に立つ。
- ・研究に対するスタンスや過程など得るものが多かった。
- ・会社に入る際、強くアピールできる研究テーマだった。
- ・物性評価試験の手法や解析法はすぐに役立ちました。また、検討会や卒論発表を経験したことは報告やプレゼンに役立ちました。さらに、工業技術センターを活用させていただいていたことで、人脈ができました。
- ・自分がやりたいと思っていたことをさせていただけた。内容も自分で考えながら進めるように指導していただいた。
- ・研究への姿勢を学ぶことができた。
- ・京セラとの共同研究で実験施設の見学ができたこと
- ・課題改善までのプロセス・プレゼンテーションを行う能力が身についた。
- ・就職後の仕事の進め方の参考になった。
- ・探求心を高められた。
- ・一つのテーマに専念して取り組ませてもらった点。
- ・さまざまなことを学ぶ方法が身についた。
- ・計画 実行 結果考察 改善のサイクルが身についた
- ・研究のアプローチの仕方を学ぶことができた。
- ・自分で考えて研究を進めていくことのおもしろさを知った。
- ・実験の基礎（考え方や手法）を学んだ。
- ・今の職に直接関係はないが、大きな自信になった。

- ・研究への取り組み方を学んだ。
- ・考える力がついた。
- ・研究というものがどういうものか分かった。
- ・教科書の中でしか知らなかったものが体験できた。
- ・丁寧な指導。ディスカッション。プレゼン能力や文章構成能力が身に付いた。
- ・データのまとめ方、考察の仕方が分かった。
- ・理学的な研究で、様々な金属の基礎を学べた。
- ・具体的な背景のある研究が行えた点。
- ・自分で考え行動する。
- ・深い知識を得られた。
- ・実験に集中できた。
- ・雑誌会等があり、論文を読む力がついた。
- ・自分が甘いと改めて実感した。
- ・化学者らしいことができた。
- ・科学の知識や考え方が身に付いた。
- ・研究に対する取り組み方や実験結果に対する考え方が学べた。
- ・研究の難しさ、大変さを学び自分のちしきの無さをを知った。もっと学習し知識を増やして生きたい。

(3)改善すべき点

- ・各論的指導だけでなく、研究の全体像の描き方・組立て方（コーディネート方法）を教える必要がある。
- ・研究期間をもう少し長くしてもらいたい（1.5年程度）。
- ・ターゲットの明確化
- ・1年間では理解した上で取り組み、成果を出すのは非常に難しいと思いますが、今は3年次から研究室配属されると聞いていますので、良いと思います。3年のうちに研究の背景を調べ、自分が興味を持って、考えながら進められるように指導していただくのが一番良いと思います。多少観点がずれても自分がやりたいことを自分の責任で考えてやらせてあげられる時間がとれると良いと思います。
- ・卒業してからもう少しフィードバックできるような機会があるといいですね。
- ・形式的な研究はやめたほうが。
- ・優秀な研究を表彰するような制度があっても良いのではないかと。
- ・産、官との交流をできるだけ盛んにした方がよいと思います。（産もそうしなければなりません。）
- ・同じテーマの先輩とコミュニケーションが取りづらかった。
- ・回数を増やして、学生のプレゼン能力を高めて欲しい。
- ・理論・メカニズムの解明にも力を入れて欲しかった。
- ・自分からテーマを提案できない。
- ・学生自身に考えさせて欲しい。
- ・機械が古すぎる。
- ・パソコンが古い。
- ・PowerPointを利用すべき。
- ・研究テーマは入社試験時の重要な位置づけであるので、学生皆に有意義なテーマを与えるべきだ。
- ・卒業研究に関しての自由度は高かったとおもいます。先生とのディスカッション時間をもう少し持つべきだったと思います。
- ・与えられるテーマではなく、自らテーマ設定して卒業すべき
- ・大学の研究テーマの世の中への貢献度を学生にもっと伝えるべき
- ・大学の研究テーマの世の中への貢献度を学生にもっと伝えるべき
- ・生徒が興味を沸かせるような研究内容のものではない。企業が興味をもってくるような、社会で実現性のある研究内容ではない。
- ・研究の進め方、レポートのまとめ方等をスキルとして定着させるようにしたほうが良いと思います。
- ・学生にもっと考えさせる機会を与えて欲しい
- ・研究の趣旨をよく理解し、自ら幌進めていける部分がもっとあればよかった。学生の自主性をもう少し尊重してもらえたらよかった。
- ・発表が重視されており、討議時間が不十分であった。

- ・研究の交流を活発にしてほしい
- ・同じ研究室での装置予約の量を考えるべき。文献ゼミ。計画的に行うべき。
- ・自分自身の準備が足りなかった。3年生から研究室に配属される意味がなかった。
- ・実験器具の使い方を覚えることから始めなくてはならなかったので学生実験をもっと充実させるべきだ

問12
各教育施設

(1)情報処理施設：

- ・良かった点
- ・利用する機会がほとんどなくわからない。
- ・卒業研究の中で活用できた。
- ・当時高価であった情報処理機器を台数に制限があったが、利用できる環境にあったこと。
- ・設備に関しては問題無かった。
- ・レポート作成時に活用した。
- ・いつでも自由に使える。
- ・気軽にコンピュータを活用できた。台数が多い。
- ・特に無し(そういった施設はなかった?)。
- ・使用した記憶がありません。
- ・自由に使用できた。
- ・当時研究室にパソコンが卒論作成に困らない程度に数台あったという点。
- ・端末がそろっていた
- ・パソコンが多く充実している。
- ・非常に使いやすい。
- ・一通りの機材はある。
- ・いつでも使用できる。
- ・最新機器の設置。
- ・ソフトウェアが充実していた。
- ・無料である。
- ・夜も開いていること

・改善すべき点

- ・利用する機会がほとんどなくわからない。
- ・演算など処理能力が不足であった。
- ・もう少し自由に使わせて欲しい。
- ・学科図書室等に学部生(1-2年生)が利用できる端末があればよいと思う。
- ・利用に関するアナウンス不足。
- ・建物が孤立していて入りにくい。
- ・使う機会がほとんどなかった。
- ・学外の人の使用も可能にすると良いのでは。
- ・ネット犯罪にかかわらないような、管理体制の拡充
- ・活用しやすい環境を作ってほしかった
- ・インターネットを使える環境が少ない
- ・使用可能時間の延長
- ・室内での会話が大きいことがある。
- ・空調。
- ・うるさかった
- ・利用者が多すぎて必要なときに使えない。
- ・終了を午後6~7時くらいにしてほしい。
- ・利用時間を増やしてほしい。

(2)実験設備：

- ・良かった点
- ・当時先端のNMR装置があり、構造解析に有効
- ・基本的に学生時代には十分と感じておりましたし、他学部の装置も使わせていただいたりしました。欲を言えばキリがありませんし、お金がない(設備が少ない)なりに自分で考えて実験装置を工夫したり、手作りしたりすることも身についたのは良かったです。
- ・学生実験等で少なくとも2-3人に1式の器具が準備されていた点。

- ・高価な機械をわりと自由に使うことができた。
- ・NMRなどは他大学出身者の話を聞いても当時最先端に行くものであった。
- ・大元の原理がわかった気がします。
- ・研究室のものは自由に使えた。
- ・基礎的な分析設備は問題なかった。
- ・400MHzのNMR
- ・様々な分析機器がそろっており、卒論研究に利用できた。
- ・基礎が学べた。
- ・規模・スペースがちょうどいい。
- ・体験的に学ぶことができ、印象に残りやすい。
- ・学生実験では各研究室の基礎研究が理解できる実験設備が揃っていた。
- ・器具の整理がきちんとなされていた。
- ・設備は充分！
- ・許可を取れば使用可能な点。
- ・研究に困らない程度の設備はあった点。
- ・ある程度の装置はそろっていた
- ・たくさんの装置があり、いろいろな解析ができる。
- ・よい環境が整っている。
- ・古い機材にも触れられるので、より原理がわかりやすい。
- ・常にクリーンに保たれている。
- ・薬品管理。
- ・研究室においての差が大きい。
- ・全体的にきれいであった

- ・改善すべき点
- ・実験機器が古いと思います。最新の機器への更新は随時行った方がいいと思います。
- ・実験室の整理整頓
- ・もっとスペースが欲しかった。それ以外は問題なし
- ・清潔感がない。
- ・古かった
- ・分析装置の不足(当時)
- ・共通機器を充実させることでしょうか。これは場合によっては各研究室(大学全体でも)での大型機器購入の際に、共通使用ができる場合はそのような購入をして、大学として補助する代わりに装置メンテはやってもらい、共通利用をさせるようなシステムがあれば非常に良いと思います。お金や場所の無駄が少なくなると思います。
- ・なにせ古くて器具が少なかったです。
- ・学生実習用の器具は老朽化したものも多かった。
- ・設備・装置が古い。
- ・汎用性、利便性、使用頻度が高いと思われる装置の更新が遅い。(学科の機器分析装置)
- ・化学材料に関する加工設備(実用的なもの)がほとんど無かったのていまいち実感が湧かなかった。
- ・ドラフトはもっと充実させた方が良いと思う。
- ・機器が古い。
- ・使うときに順番待ちが発生することがあること。
- ・パソコンが少なく、時間によっては早い者勝ちだった。
- ・消耗備品についての購入をよりスムーズに
- ・実験設備が老朽化すれば、安全に配慮した新しい設備に更新すべきだ。
- ・5S・共同センター?に高額な設備等があったが、メンテや測定上の加減を指導してくれる人(専門的に)がいなくて、宝の持ち腐れがあるように感じた。
- ・安全設備の充実
- ・大型の共通機器が少なすぎる
- ・共通の実験室がもう少し綺麗だとよかった
- ・旧帝大との差が大きすぎる。
- ・実験器具の整理。
- ・設備が古い。
- ・故障があった際の対応に疑問が残る。
- ・学部、学科間の垣根が高いような。。。
- ・古い
- ・さらに設備を充実してほしい。

(3)図書館：

- ・良かった点
- ・文献検索
- ・読書に集中できる静寂があった。
- ・基本的には学生時代には十分でした。
- ・各学科の図書室が充実していた（雑誌や参考書の蔵書数など）
- ・あまり利用できなかったが、新しくなったこと。
- ・出入りが比較的自由。
- ・文献の複写依頼を丁寧に対応してもらった。
- ・検索し易かった。
- ・整理整頓がされていた。
- ・文献の検索や図書から物性知識を身につけた。
- ・学習スペースなどは使いやすいと思う。
- ・蔵書量が多い。
- ・質がよい。
- ・落ち着いており、何時間でもいられる。文献検索。
- ・最新設備の図書館を利用できた。
- ・オープン的で入館しやすい雰囲気・使用環境は良かった。
- ・学習机がそろってる
- ・在学中に新館になり、設備が新しかった点。
- ・個室スペースも含めて環境が整っていた
- ・本が充実している。
- ・非常に使いやすい。 ・割と大きい。
- ・データベースがしっかりしている。
- ・専門書がそろっている。
- ・専門書が豊富。
- ・文献検索システム等がよかった
- ・必要な本が多くあった
- ・机の数が充実しており学習環境が整っている。

・改善すべき点

- ・夏暑かった。
- ・書物が古かった。
- ・当時は文献複写の手続きが面倒だった気がします。
- ・蔵書がもう少しあった方がいいです。
- ・中央図書館の蔵書の充実
- ・必要とする本が行方不明になっている事が多い。
- ・多くの論文をすぐに入手できるようにしてほしい。
- ・専門の英文雑誌が完全ではない点。
- ・取扱うジャーナルをふやしてほしい。
- ・パソコン検索システムが分かりづらかった。
- ・本が各学部には散らばっており、少なくなっている。
- ・新しい図書が少なかった。
- ・自習室の数を増やし、学外の人でも自由に利用できるようにしてほしい。
- ・24時間使用させていただけるようにしてほしい、LANがせっかくあるのにネット接続できなかった点。
- ・検索システムが当時は使いづらかった。
- ・本の検索方法が簡易とは感じなかった。もっとやりやすい方法があるはず。
- ・検索端末の増設、内容拡充。 ・自習が隔離スペースでできたほうがよい。
- ・文献の依頼システムの簡略化、時間短縮など
- ・机の数がもう少し多ければよかった
- ・一般の文庫本やビジネス書、就職関係の本も置いて欲しい
- ・webサイトで読める論文誌を増やしてほしい
- ・依頼文献の到着が遅かった
- ・使用可能時間の延長
- ・エアコンが全館に入っていない。
- ・机の数を増やす。

- ・テスト前だけ人が増えるので、普段から使っている人にとっては不便。
- ・論文の検索などが充実していない
- ・席数が少ない
- ・テスト期間中に施設利用が困難であった。
- ・利用時間を増やしてほしい。
- ・個別のスペースを増やしてほしい。

問13
教育改善
プロセス(PDCA^{*2})で
考えられ
ること

(1)教官側(担当者・テキスト・講義・テスト・評価方法等)

- ・特になし
- ・講義
- ・教科書の内容をそのまま説明するのではなく、各教官独自の噛み砕いた表現で講義を進めていくべきだと思います。
- ・インターネットの有効活用(カルチャーショック的な情報量の豊富さ)。
- ・画一的な評価基準では難しいかと思います。それぞれの講義を他の教官にも聴講してもらおうとか、むしろ専門外の教官にも意見を求めるとかできてもいいと思います。テキストは基本的なもので、講義は教えるより興味をもってもらえる内容でいいと思います。評価そのものを気にした講義は意味がないですし、学生の意見を講義やテキストにどのように取り入れるかの方法を考える必要があると思います。OBや院生に講義をさせてみるといった試みはできないでしょうか。その上で、学生主体での座談会を行うとかするのも良い気がします。
- ・いろいろ忙しいとは思いますが、まめに学生と意見を交わす姿勢が欲しいです。
- ・自らの経験では、ミニレポート、中間テスト等は教官側の負担は増えると思うが、そのような課題(ノルマ)があった方が最終的な理解度は高くなると思う。
- ・各学生とのコミュニケーション
- ・他大学との提携、単位交換など面白いと思います。
- ・内容のレベルが下がってしまいそうです。
- ・研究室、学科設備の公開、デモなど。
- ・より早い時期に就職説明会をし、学生に早期に就職感を与えて欲しい。
- ・実際の工業でその講義がどう活かされているかを教えるべき。
- ・物理化学の内容はもっと充実させたほうがいい。
- ・受講者の人数が講義によってまちまちなので、水準化したらやりやすいと思う。
- ・期末テスト以外にもテストを実施し、学生の理解度を認識する。
- ・出席率の正確な把握。
- ・テキストを読むのみの講義の廃止。
- ・CAの部分をもっとやって欲しい。
- ・その講義の目的、学問的、社会的位置づけなどをはじめに説明した方がよい。
- ・板書をきれいに、見やすくする事。
- ・学生が興味をもつ講義を
- ・形だけの講義は不要。学生が興味を持つ内容にすべき。
- ・学外研究者の招待講演実施(有料でも良いのでは?)
- ・学生との対話(ディスカッション)を重視してほしい
- ・研究者としての評価が必要では。
- ・学生からの評価をもっと重視し、給与へも反映すべき。学生にもものを教えようとする姿勢が見えない
- ・学生自身に考えさせる時間が必要。
- ・おもしろくない講義が多かった。教え方をもう少し工夫してほしい。学生の教官評価をすべき。
- ・評価されることでよくなった講義があり、良い制度だと思う。
- ・評価方法に個人差がある。
- ・次の年の講義に反映されているかどうか疑問が残る。
- ・テスト内容を工夫してほしい。

(2)学生側(モチベーション・学生アンケート等)

- ・企業に入ってどのような仕事をするかはわからない。いろんな知識を身に付けておく必要がある。
- ・学生による教官の評価
- ・講義だけでは理解は不可能です。インターネット、市販の参考書等で自分が理解できるような情報を自ら仕入れることが大切です。
- ・上手く表現できませんが、異分野に対する日常的なアプローチ
- ・やはり、受身の講義姿勢ではなく、自分たちがやりたい、知りたいことをやってもらえる講義にしてあげられるのが良いと思います。どのようにして意見を吸い上げるかが難しいとは思いますが、上述のような方法で少しでも学生が意見を出しやすい雰囲気を作ることが大事かと思えます。また、アンケートなども教官が項目を出すよりも、学生がアンケート内容を作るなどの試みもあってよいと思えます。
- ・やる気を出すに限ります。
- ・学生のモチベーションを高めるためには、成績優秀者表彰等の制度は有効であると思う。
- ・頻繁にレビューを行い、自分の位置を確認する。
- ・産・官・海外との交流から自分が学んでいることの位置づけができるようになれば、モチベーションがアップすると思えます。
- ・楽なほうに流れてしまいそうです。
- ・グローバルに活動して、広い視点と価値観を持ってほしい。
- ・真剣に講義に挑む。
- ・一回のテストだけで評価するより、簡単なレポートを複数回出した方が、学生は勉強すると思う。
- ・興味ある分野への積極参加する意志を持つべき。
- ・PDの部分をもっと学生に任せてもよいのでは。
- ・「自分はこの研究室に入りたい」という意識をもっと持ち、研究室を決めるべきだ。
- ・受験から開放され、学習へのモチベーションが低下する。インターン制度などを積極的に利用したほうが良いと思う。
- ・大学に進学した意義や意味を問うのはどうですか？
- ・学外実習の積極参加。・モチベーション
- ・その講義でどんなことをやってみたいか、期待することなどをはじめにアンケートで正直に答えること。
- ・進級審査をもっとシビアにすべき。
- ・自分自身でPDCAを組み立てることができる力をみにつけるべき。
- ・出席を確実にとって欲しい。
- ・たまにどれにも当てはまらないと感じる回答が用意しており、回答しようがない。
- ・モチベーションをあげ続ける。

大学院で受けた教育	問14 大学院での教育 (進学者のみ記入)	(1)院への進学は役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
			29	20	5	1	0
		(2)良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・化学的知識を深めることができました。 ・研究する時間は十分に取れた。 ・結果として、現在役に立っていること。 ・調査段階(論文)も深く勉強できたこと。ゼミの教育と同じく学ぶ仲間にも恵まれたこと。 ・物事を深く掘り下げる姿勢が身につくと同時に、一方で、より客観的に広くものを捉えようになった。 ・学部のみでの専門知識習得は困難 ・より自分がやっている研究への興味が増し、結果的に現職に就ききっかけとなりました。 ・3年かけてじっくりテーマを追えた所 ・専門知識がついた。 				

- ・研究に対して自分自身で問題点を見だし、解決するための手法が学べたこと。
- ・研究する分野の知識が深まった。
- ・卒論で学んだことをさらに深堀することができた。学会発表などでプレゼンテーションの重要性を学ぶことができた。文献調査、留学生との交流で英語力が向上した。入社時にはTOEICのスコアで上司に褒められた。
- ・学部時代の研究テーマからさらに広く研究できた。
- ・一生懸命できる環境であったこと。
- ・専門的な知識をより得たこと。
- ・問題解決のためにはどうすればいいか考える姿勢が身についた。
- ・卒業研究とは違い、2年間というスパンでじっくり研究が行えたこと。
- ・専門知識が身についた。
- ・学部より遙かに広い分野について勉強できた。
- ・専門分野、研究を深くまでできた。
- ・物事のコエ方、社会に出るまでの地盤を構築できた。
- ・研究テーマを長く研究できた。
- ・専門的なものの見方、プレゼンのやり方の習得。
- ・自分でテーマを考え、実施できた。
- ・知識、意識など得たものすべて。
- ・一つのテーマを、実社会と同じく2~3年のスパンで研究できた点。
- ・自分の研究レベルを最適に深める事ができた点。
- ・考える時間が持てた。自分で考える能力が身についた。
- ・より専門的な知識が得られた。・研究室で後輩をもつことで、人間的に成長できた。
- ・より専門的な知識を習得できる講義内容であった。必要単位数がそれほど多くなく、修論に関して時間をかけられるカリキュラムであったこと。・興味のある事柄についてより深く学ぶことができた。
- ・研究者としての基礎を築けた
- ・大学院に進学してさらに深くまで研究を進めることができた
- ・専門知識が得られる。研究へのアプローチの仕方が身に付く
- ・研究者としての基礎を作ることができた（論文執筆など）
- ・実践できる力を身につけることができた
- ・研究に対する姿勢を学ぶことができた
- ・学会などで、いろいろな先生方と交流でき、研究に対する姿勢などを学んだ。
- ・実験が長くできたこと。
- ・就職に有利。
- ・研究を深く行えた点。
- ・専門性を身に付けられた。
- ・より深い知識を身に付けた。
- ・学部で得た知識をさらに深く掘り下げることができた。

(3)改善すべき点

- ・特になし
- ・講義の内容を見直して欲しい。
- ・使用している教科書内容が難解であったこと。
- ・私の甘さがありましたが、目標を持たせ、もう少し厳しくご指導されてもよかったのかもしれない。
- ・各自専門的になっていく中での講義は難しいと思いますが、基礎的な部分は必要ですし、逆に広く浅くでもいいのかもしれない。大学院に進む程度の学生ならきっかけを与えて自分でその先を学ぶ手助けになっていれば良い気がします。むしろ英語やプレゼン（相手にわかりやすい資料のまとめ方、PCの使い方、話し方）に関する講義、学術誌や先端研究の紹介などの講義があるのも良いと思います。
- ・もう少し自分のテーマ外のことにも興味を向けるべきだったなと思っています。
- ・実社会で役立つことも重点的に指導して欲しい。
- ・教官によって講義の内容に差がある（当時はそうだった）

- ・学会などへの参加が少なかった。
- ・国内の産・官だけでなく、海外との交流をもっと盛んにできればよいと思います。
- ・これからはグローバルな時代なので、英語のプレゼンなど学生の将来を見据えた指導をお願いしたい。
- ・講義と研究のバランス。
- ・講座数が少なく、専門研究ばかりやっていた。
- ・予算が少ない。
- ・講義を1年前期のみ詰め込み、残り一年半は研究に集中させた方が効率上がる。
- ・当時の担当教授が学生の実態を把握できておらず、野放しになっている学生もいた。
- ・学部で大学院に相当する知識等を得られる教育。
- ・問題・課題について学部の垣根を気にせずに出し合える場があった方がよい。
- ・修士学生の知識レベルをもっと上げてほしいと思う。
- ・英語でコミュニケーションがとることができるような講義の設置
- ・最低単位数しか取らなくなるので、知識を広げる意味で必修単位数を広げては？
- ・もっと英語を！・もう少し狭い範囲について、より深く学べればよい。
- ・他大学などで行われている研究などを知る機会が少なかった。
- ・視野をひろげ、自分の研究に生かすために学内の農学部や医学部での講義を聞いてみたかった。
- ・学内発表における討議が充実していない
- ・英会話の学習機会を設けるべきである
- ・大学院での講義はテストではなくレポートにすべき。
- ・研究室間での教育レベルの格差が大きい
- ・専門的すぎる講義があった
- ・学費が高い、授業が少ないのに。
- ・授業は減らしてよいと思う。

大学での 学生生活	問15 クラブ・ サークル 活動	(1)活動の経験は、有 無 有の方は(2),(3)にお答え下さい。	有	無			
			49	28			
		(2)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
		29	15	9	0	1	
		(3)特に役に立った体験					
		<ul style="list-style-type: none"> ・体育会系の試合への出場 ・人間関係を円滑に進めることを学びました。青春でした。 ・先輩、後輩とのつきあい方や仲間で目標を持ってやっていくことが社会人になっても生かせたと思います。 ・学部を超えた横の繋がりをもてた。学業以外の知識が身につく、就職後も役に立っている。 ・宴会での礼儀作法 ・団体生活での人間関係の築き方。役員をやった経験から人をまとめる難しさ。同じ目標に皆が力をあわせる喜び、楽しさ、辛さも学びました。社会でも確実に役立ちます。 ・合宿、大学祭 ・人間関係(人脈づくり) ・個々の人間が有する能力を団体に発揮することの難しさ、(10×10人=1000にはならない点)を経験したこと。同じ長所を持った人間ばかりでは、団体としてのバランスが悪くなることを学んだ。 ・クラブの運営など高校時代とは異なる同級生との交流があった。 ・チームワークなど協調性を学ぶことができた点。 ・いろいろな人とつき合えた。集団生活(=組織)が身に付いた。 ・人間性と責任感。縦と横のつながり。 ・大学祭等を通しての人間交流。 					

- ・剣道部で礼儀、忍耐力を学んだ。いろいろな学部の人と会えた。自分のその後の趣味に大きく影響した。主将経験
- ・学生生活6年間で得たサークル活動で、サークルの主将にもなり、会社の入社試験でアピールできた。
- ・合宿、特に合宿でお世話になった地元の方々との交流。また、OBや先輩と席を共にした飲み会です。
- ・チームワークとリーダーシップ
- ・プライベートの充実程度で特になし。
- ・考えて行動をする能力の育成、「仕事」をしてお金をもらうことの意味を考えるようになった。
- ・ポスターを貼らせてもらうために、飛び込みで見知らぬ人に頭を下げをお願いして回ったこと。
- ・ほかの学部・学科の人と知り合えた。
- ・他学科との交流
- ・卒業後もつきあえる友人ができた
- ・全体を通して大学生活が楽しく過ごせた
- ・人とのコミュニケーション
- ・精神修養ができた
- ・1000人規模の大会を取り仕切ったこと。就職試験でも武器になったし、自分に自信がついた。
- ・大学祭
- ・チームワークのすばらしさ、仲間と協力することの大切さを学んだ。
- ・大人数の気持ちを統一するための各個人の心理をバランスよく保てたこと。
- ・OB、OGとの交流。他学部の話が聞けておもしろい。学際などのイベントではサークルが集まることが多く、入っていて良かったと感じた。主将としてサークルをまとめ上げ、また社会と交流し様々な体験ができた。
- ・社会勉強。日常生活、就職等学生生活の全てと言ってもいい。知り合いを増やせることが素晴らしい。
- ・毎日の練習。Plan do seeの繰り返し。
- ・大勢の前に立つという経験を積むことができた。
- ・物事を客観的に見ることが出来た。
- ・人間関係を学んだ。
- ・学園祭での準備などを通じて達成感が得られた。
- ・ダイビングのサークルで協力関係を作ることを学んだ。

問16
アルバイト活動等

(1)活動の経験は、有 無 有の方は(2),(3)にお答え下さい。	有	無			
	79	6			
(2)役に立ったか：5段階評価 (有益) 5 4 3 2 1 (無益)	5	4	3	2	1
	40	25	13	1	1
(3)特に役に立った体験					
<ul style="list-style-type: none"> ・レベルに応じて教えることの難しさを知った。 ・ゴルフ場のキャディ(いろんな人と話げたこと) ・社会経済への参加 ・接客 ・基本的な挨拶等のヒトとの接し方 ・家庭教師、土工工事 ・社会の厳しさを実感できた。 ・親のすねかじりを微弱ではあるが緩和できたことと、社会に対する若干の貢献が行えたと思う。 ・理解させる難しさ(家庭教師) ・人のために役立つ、喜ばれる実感、そして労働する苦勞とそこで得られるお金のありがたみを学びました。 ・短期中心でしたが、やはり自分で稼ぐということが将来の就職にもつながるということで、社会体験できたところ。 ・人間関係 ・お金を稼ぐことの大変さ、マネージメントする人間によって仕事の効率が大きく異なることを学んだ。 					

- ・社会人の人と話す事で仕事というもの(金を稼ぐ)というものがどういうことかわかった点。
- ・土木作業員などの肉体労働。労働の大切さを体験できた。但し、特に無理してアルバイトする必要はないと思います。
- ・学生生活に常に力尽きそうでしたが、退学する事も無く、除籍にもならず無事卒業できました。
- ・食品製造工場における交代勤務、品質管理に対する姿勢を見た経験。
- ・サービス業を経験し、相手の気持ちがわかるようになった。組織として行動できるようになった。
- ・家庭教師をしていたので、高校の知識を持続できた。
- ・家庭教師のアルバイトで得た人と人との信頼関係。
- ・労働してお金を得る。
- ・家庭教師で学習指導のコツをつかめた。
- ・大学以外の人と会えた。
- ・社会性が身に付いた。
- ・嫌な仕事をするからお金がもらえる。
- ・一種のおきらめ。
- ・「労働」に対する「対価」の実体験の有無は実社会において重要 銭湯の風呂掃除を6年間行った。住んでいた下宿先には風呂がないが、そのバイトを行う事で、バイト代を入手し、かつ銭湯の入浴は無料だった。
- ・社会人の方が仕事をする現場が見られたこと。学校とは別の友人ができたこと。
- ・様々な年齢層の人たちとの関わりを通して、社会勉強になった。
- ・人に教える方法・サービス業での接客
- ・さまざまな境遇の人と話をすることがあったこと。
- ・学校以外の人と知り合えた。
- ・様々なタイプの人とどうすればうまくやっていけるかを学んだ。
- ・現場のシミュレーションと実際の現場での対応
- ・お金と仕事の有益性を感じた
- ・大学では学べない仕事の段取りの付け方や金銭感覚を学べた
- ・接客業で基本的な敬語を学べた
- ・お金を稼ぐことの大変さと責任
- ・礼儀が学べた
- ・社会人としてのマナーを学んだ。
- ・ボランティア活動に従事できた。
- ・企画運営を学生60人で達成できた。
- ・サービスの心得を教わった。
- ・言葉遣いや責任感が生まれた。
- ・家庭教師。
- ・社会経験が学生の時にできた。
- ・社会勉強。
- ・就職活動に役立つ。中身のないアルバイトはすべきではない。
- ・働くきつさがわかりました。
- ・最後の戸締りまで任され、責任ある仕事をする事ができた。
- ・自分の考えを伝える力がついた。
- ・接客の難しさを学んだ。
- ・働くこととお金の使い方

卒業後	問17 大学のホームページへのアクセス (http://ace.cen.kago-shima-u.ac.jp/)	(1)大学HP(インターネット)への利用は、有 無	有	無	
			39	35	
		(2)大学HPの良い点 ・特になし ・利用していないのでわかりません。 ・リンク連携、配色、配置など一般的なレベルをクリアしている。 ・目的とするページへはわかりやすく移動できます。 ・見やすい構成になっている。 ・シンプルで見やすい構成だと思いました。 ・自分の行っていた研究がどうなったかがわかる。			

- ・ホームが鹿児島らしくて雰囲気がある。
- ・検索しやすい。
- ・アドミッションポリシーなどを明示している。
- ・遠隔地からの情報収集が可能。
- ・アクセスマップが充実している。
- ・各学部へアクセスしやすい。
- ・入試情報や、研究室の研究内容についての情報が得られた。
- ・今回初めて拝見しました。大変出来栄が良いと感じました。
- ・各学科へのアクセスの容易さ
- ・最新の情報を知ることができる。
- ・各学部へのアクセスがわかりやすい。
- ・情報更新。
- ・履修申請をWeb上でできる。

- (3)改善すべき点**
- ・もっと企業を意識したHP作りが必要と思う。
 - ・利用していないのでわかりません。
 - ・分析の方が中心になって、良いHPを立ち上げてますが、あまり知らないのか掲示板の記入があまりないことです。
 - ・各研究者の連絡先（TEL、E-MAIL）記載
 - ・今後、世界からのアクセスを意識してページ内容の充実にご尽力ください。
 - ・研究内容、論文を出来るだけアップする。
 - ・もう少し研究内容や成果を公表するページがあったらよいと思います。
 - ・更新が少ないのではないかな？
 - ・今まで利用していませんでしたので、今後利用させていただきます。
 - ・分かりづらい。
 - ・企業に向けた情報発信の強化。
 - ・最終目的地までのクリック数が多い。
 - ・キーワード検索機能を充実。
 - ・研究・産学連携の研究者総覧を良く見るが、検索に時間がかかる。
 - ・サークルのHPへもリンクすべきだ。
 - ・例えば、Eラーニングのように、授業からの宿題をネットを通して学生に出題する。
 - ・大学の特色がみられない。鹿児島の特色を生かした研究成果なども積極的にアピールすべき
 - ・PDFファイルの文字が見にくいものがあった
 - ・Macで正常に表示されないページがあった。
 - ・サイトマップが欲しい。
 - ・リンクが多く見にくい。
 - ・文字が小さい。
 - ・見にくい

問18
他大学学
科卒と比
較して

- (1)教育上**
- ・劣っているとは思わない。
 - ・そこそこのレベルにあると思う。
 - ・特に不具合は感じない。
 - ・十分引けをとらないレベルであると思います。
 - ・作業、経験が限られていた。
 - ・どうしても地方ということで、他大学や企業、公的研究機関との交流が少ないのは否めませんし、学会やセミナー等へも参加できない点もあります。中央に近い大学は卒論研究等で企業や大学、公的研究機関と共同研究したり、相手先で研究したりしているし、学会への参加も積極的に参加しており、人脈も経験も豊富です。しかし、教育内容そのもので劣っていると感じたことはありません。
 - ・九州大学卒の人などと話していると「きれいなー」と思うことがあります。
 - ・特に違いは感じない。
 - ・本人次第だと思います。差がある場合もある。
 - ・同等だと思います。卒論、修論を通して、他の化学系学科出身よりも多くの化学の知識を学べたと思います。
 - ・最終学年でついた教授による影響が大きいと思います。

- ・他の大学はわかりません。
- ・更に上を目指すべき。著名な卒業生のお話をどんどん聞かせて欲しい。
- ・優秀
- ・物理化学の基礎知識が乏しい。
- ・学部が多く、様々な教育を学べる。
- ・県内や九州内で収まっているケースが多い。
- ・教養科目が他学科にまで及ぶので、知識の習得がしやすい。
- ・他大学はチームで研究していると感じた。
- ・学力レベル、自分の研究に対する探究心等で劣ると感じる事もある。
- ・授業内容を改善して、各先生方がフリータイムを設ける。
- ・もっと視野を広げるべき
- ・特に優劣は感じない
- ・あまり関係ない
- ・社会で生きていくことについての授業が足りない。
- ・関東等、都会の学生と比べると学会聴講等の機会に恵まれない点はあると思います。
- ・基礎学力と一般常識が若干乏しい
- ・特に変わらない
- ・研究室以外での教育が役立っているかどうか疑問
- ・勉強に力を入れていると思う。
- ・九大と比べると、九大の方が授業内容も濃く、フォローもしっかりされている。
- ・機材が古いのは教育的にはかえって良い。
- ・差ほど変わらないと思う。

(2)行動上

- ・協調性，積極性は高い。
- ・そこそこのレベルにあると思う。
- ・特に不具合は感じない。
- ・個性的な人が多い。
- ・上記の理由もあって、人脈が少なかったり、公の場での経験が少なく引っ込み思案になってしまう傾向があると思います。
- ・とはいえ、鹿児島大学卒ということで、恥ずかしかったとかは全然無いですし、むしろ行動的で活発だと思います。
- ・他大学との交流がある都心部の大学に比べ、他人との交流という点で、積極性に乏しい面がある。
- ・鹿大は学内がのんびりしているムードがある。
- ・若干、控えめだと思います。
- ・ものすごく酒を飲むと思われるので困ります。
- ・先見性を見定め、社会に貢献できるような研究開発や地域活動を進めて欲しい。(特に、ある特定の高校と連携し、より早く、実践的な経験を積ませ、より多くの学生に興味を持たせて欲しい。
- ・模範的
- ・あまりかわらないと思う。
- ・学生の授業態度が悪い。
- ・県内や九州内で収まっているケースが多い。
- ・一カ所に多くの学部が集中しているので、他学部の講義を受ける上で一長一短。
- ・きちがいじみている。
- ・一生懸命学習する人と、そうでない人が二極化している。
- ・まじめな卒業生が多いと評判のようです
- ・個性やこれまでの取組の差だと思っているので、他大学卒と比べたことはない。
- ・あまり関係ない
- ・非常に活動を始めるのが遅い。
- ・特に差はないと思います。個人差の方が大きくこの観点の比較は難しいです。
- ・礼儀正しい、素直
- ・特に変わらない
- ・差ほど変わらないと思う。

問19 全般的な 評価	満足度：5段階評価、該当する番号： (満足) 5 4 3 2 1 (不満足)	5	4	3	2	1
		17	34	18	0	0
問20 特に社会 人として 重要と思 うこと、 後輩に伝 えたいこ と等	<p>・1) 社会人になっても夜型の人が多くなったが、朝型に早く切り替えること。</p> <p>2) 金を払って授業を受けるのと、仕事をして給料を貰うことの違いを自覚する必要がある。学生気分がなかなか抜けられないようである。3) 自己中が多くなった。社会や周囲の人に奉仕する気持ちをもう少し持って欲しい。4) 大学でなかったことが役にたたないのではなく、役立てようとする姿勢が足らなかつたり、習った事を忘れていくことが多い。</p> <p>・いろいろな物事について自分の信念を持って行動すること。背伸びをせず、自分のできることを1つ1つこなしていくこと。</p> <p>・社会人は色々な意味で大変ですが、がんばってください。それと、就職先選びは慎重にした方がいいと思います。</p> <p>・将来必要と思われる国家資格はなるべく学生のうちに取得するほうが良いと思う。社会人になると意外にゆっくり勉強する時間がとれません。</p> <p>・社会の厳しさや親のありがたさを早く気づいた人が成功するでしょう。</p> <p>・会社に入ると自分の担当分野は勉強するが、それ以外は分らない、という人がいます。想像するに、就職後は学生のときのように強制力(授業・単位)が働かないため時間の経過と共に、化学の人は化学、建築の人は建築、電気の人には電気といった具合に役回りが固定化する傾向です。ただし、その専門性ゆえにお互いが衝突し、無責任な方向へ流れていくケースも発生します。今のうちだけでなく、今後も継続して、広く知るところを期待します。</p> <p>・とにかく英会話力を身につけて下さい。</p>					

問20つづき

- ・自分の意見をしっかりと持つことです。さらに、それをヒトに説明できることがさらに重要です。
- ・当たり前ですが挨拶ができることと時間を守ることです。どうしても約束の時間に間に合わない場合は早めに連絡をとる必要があります。また客などの相手は、自信がない点や逆に自信過剰な点、誠実さ等はすぐわかってしまいますので、逃げないでしっかりと対応することです。新人であればわかっているふりをする必要はありません。
- ・“大学時代にやればよかった”と後悔しないように 多くのことにチャレンジしてほしい、自分のビジョンを持った社会人になってほしい。
- ・礼節を学んでほしい
- ・バイト・部活はするべきである。数え切れない程、学ぶことはある。勉学との両立という点だけでも、十分に自分の糧になると思う。それと、大学が一番自由な時間があると思う。その貴重な時間を無駄に使わないで欲しい。
- ・正直地方大学として不利な点は多々あるかと思いますが、学べることは自分自身で見つけられるので、むしろそのハンデをバネに頑張っていければ、決して社会人になって差を感じることはないです。自分で考えて自分の責任で行動できるようになるために大学時代はあると思います。結局は先生方からどのように教えてもらったかではなく、それをどう理解し、活かすかの方がよほど大事です。
- ・卒業時の研究が役に立つことは稀ですが、その中で学んだことや、一緒に学んだ仲間たちが一生つきあえる仲間となりますので大切にしてください。
- ・本当に自分のやりたいことをしてお金を稼ぐためには、まずは所属した会社や組織からあたえられた課題をクリアして成果を上げ、自らを認めてもらうことが必要です。卒論研究配属等で自らの希望がかなわないからといって自らの人生計画が終わってしまうわけではありません。大学では、あたえられた課題(仕事)に対して、興味があるなしにかかわらず、成果を上げるにはどうすればよいかという考え方を学んで下さい。
- ・大学で学んだことをそのまま仕事に活かせる機会は少ないと思いますが、卒論テーマに取り組む際のアプローチの仕方、プロセスは、その人のコアとなると思います。一つのテーマに集中して取り組むことができる期間はそうないと思いますので、一生懸命学問に取り組んだ方がいいと思います。プレゼンテーション、(日常会話などでも)、自分をアピールする能力を身につけておくことが大切だと思います。都会の大学出身者は話すのがうまいです(余計なことも多いですが)。
- ・勉強も遊びも学生のときにしか出来ない事がたくさんあります、なんとなくすごすのではなく何かか
- ・学生のうちに勉強だけでなくいろいろな経験を積んでください。
- ・学生時代は時間があるので、勉強以外にも遊び、趣味、アルバイト、サークルなどいろいろやってみたらいいと思います。今となっては忙しくてできないです。そして自分の将来像を考えて、今何をすべきか考え、できることから行動すると良いと思います。
- ・学生の時は色々な事に挑戦してほしい。

- ・とにかく自分しだい。
- ・人間は一人では何もできない。人がいて自分がいる。技術革新の早い世の中、研究・製造・販売が輪となって一致団結しないと何もできないと理解できました。後輩諸君には、より人間性を高め、正しいことを強い信念で貫ける広い人間に育って欲しいと思う。
- ・学生時代は目的意識を持って、講義に挑むべき。一つの講義もおろそかにせず、テストのために勉強するのではなく、社会に出た時役立てるために勉強するのだという強い目的意識を持って欲しい。
- ・自らで考え、自ら行動を起こしていくことが大切である。
- ・社会に出ることはプロとして働くことです。社会人としての自立意識をもてるように今のうちにトレーニングしてください。鹿児島大学出身者は仕事に対して素直に取り組み、且つ努力してこなすという好印象があるのでそれを受け継いでください。
- ・自分の行動。言動は自分で責任を持つこと
- ・人の役にたつために自分がどのようにありたいかを自分の頭で考え、能動的に行動すること。
- ・人として正しいことをすること。
- ・将来の夢(ビジョン)をもつこと。大学では、中学、高校と違って勉強もプライベートも自分から主体的に動かなければ何も始まらない。大学ほど自由な時間をもてることはまれなので、自分のやりたいことを思いっきりやってほしい。そして、頭の片隅には、大学卒業後はどんな自分になりたいか、イメージしてほしい。
- ・自己主張をすることが大事だと思う。自分の環境は自分自身の力で変えていく努力をしなければいけない。
- ・大学で多くのことを学び、たくさんの人に出会うことで自分の夢を見つけられたらいいと思います。
- ・まだ社会人ではないのですが、自分の進路は不明確であっても常に考えていた方がいいと思う。
- ・仕事上最も重要なのはコミュニケーション能力です。自分の行ったことは良いことも悪いことも、報告・連絡・相談は速やかに行い、次のアクションに繋げることが大切です。他人に対して自分の意思を伝えることも非常に大事なことです。
- ・礼儀作法や一般常識に気を配ることが大切。大学時代に学んだことは社会に出てから役に立つことが多い。適当に大学生活を過ごすと、仕事も適当にしかできない。大学時代をどう過ごすかでその後の人生が左右される。「これは関係ない」と安易に取捨選択しないこと。県外にもっと情報発信量を増やすべき。学会参加などを積極的に。自分の考えをわかりやすく説明するプレゼンテーション能力など、社会人に必須の技能が大学で学べる。自分が数年後にどうなっているか、明確なビジョンを持っているかが大切であり、上司や先輩はそこを見るところ。言葉遣いや態度等の一般常識的なことも卒業までに身につけてください。人との付き合いを大事にしながら自分の人間性を高めてゆきましょう。夢や希望は大学に埋めてくること。諦めない精神。
- ・実社会で学べることは、生活・職業に係る至近なことが多くなります。「学生」としてしか学べないことは倦まず修めること。入社して学生時代の研究テーマが非常に重要である事を感じた。その研究テーマによって、自分が会社に必要な人材であるかを最初に判断される。学生時代の研究テーマは、自分の入社後のやりたい研究を意識して決めるべきだ。
- ・技術者として課題解決をすればいいという考え方ではなく、情報収集 計画立案・企画 計画の実施 折衝・プレゼンができる、リーダーシップのある人材になるよう努力すべきと思います。
- ・大学は横社会、会社は縦社会であり礼儀は大事。自分の考えははっきり伝える。・専門でやってきたこと=仕事でやっていくこと、ではないので、研究において壁にぶつかった時の、考え方・解決方法をよく身につけてください。あと、語学も大事です。
- ・自分が全て！ 学校がどうかしてくれると考えるのは大間違い！ 自分の道は自分で！
- ・意味もなく卒業をゴールと考えていると、いざ自分のしたいことが出てきても、それをできる可能性が狭まってしまう。将来の生き方を考えて大学に行く海外の学生に負けないように、近い将来から先の将来までを考えて何を学ぶかを決めるべき。
- ・やはり、幅広く勉強すること。これに尽きる。学問・研究については大いに悩むことが重要。人生については悩みすぎることはナンセンス。(以上、反省含めて。)
- ・実験の進め方や実験レポートの書き方などの社会人(特に研究者、技術者)に必要なスキルは重要だと思います。
- ・責任。遊ぶときは遊び、研究するときは研究し、メリハリをしっかりとつけて欲しい。メリハリをつけて学生生活を楽しんでもらいたい。
- ・社会人として大切なことは礼儀である。
- ・就職活動は早めに取りかかること。
- ・何ことも人との付き合い。言葉遣いや思いやりといった精神面が大事。

・私は、鹿児島大学工学部の応用化学工学科を卒業したことを誇りに思っています。素晴らしい先生方や先輩、同級生、後輩に恵まれました。若輩ながらも思うことはやはり学校も会社も人が大切です。これからも鹿児島大学がますます発展するように、私もこれからも精一杯努力する所存です。

・教育自体は先生によってまた研究室によって様々かと思えますし、一律である必要はないと思います。分野による違いもあると思えますので。結局は学生自身がその気がなければどんなに良い先生、授業、設備、研究テーマがあっても意味がないでしょうし、表現は悪いですが、そこそこの内容でも本人がその気があればどのようにでも活かしていくものだと思います。むしろその活かしていける力をつける指導が大事で、きっかけをあたえる指導、興味を抱かせる指導が重要かと思えます。また、自分で考えたことを実践させてあげられる余裕（時間的にも金銭的にも）は必要です。私自身は在学中にそのように指導していただいたことを非常に感謝しております。また、そのような学科の雰囲気作りも大事だと思います。研究室間の交流、学科間の交流、学年間の交流、OBとの交流、他大学や他の研究機関との交流は大切です。私も在学中に他大学の学生や研究者の方と交流する機会があり、非常に刺激になりました。専門以外の繋がりや話しをする機会も重要だと思います。また私の在学中の応用化学学科の雰囲気は非常に良く、今でも自分の研究室の先輩後輩だけでなく、他研究室の先輩後輩とも交流があります。このような雰囲気の学科は他大学でもそうそうあるものではないと思っていますし、そのような応用化学学科を卒業していることを私は非常に誇りに思っております。

・社会にでて役立つこと。例えば論文発表等をどんどん行ってほしいと思います。

・学生時代は、時間もあるのでなるべく語学力をつけることに努力すると良いと思います。学生の間はこの必要性に疑問を感じ、なかなか真剣に取り組むことができないのが現実だと思いますが、社会人になると外資系でなくとも英語力を問われることが多くなります。自分で必要性を感じてもそれに取り組む時間を確保することが困難になります。

・社会人となって丁度二年が経つが、想像した以上に社会は厳粛ではなかった。よほど真面目な学生のほうが、がんばっているし、先見性や人間性も高いと思った。同時に、いくら勉強が優秀な人でも、人間性が高くないと、誰もついて来なく、何も仕事はできないと思った。これからは、より人の気持ちがわかる人、気遣いできる人が機能性のある人として必要となってくると思う。当然、言語能力は必要である。学生諸君には、学生のうちに様々な経験をし、打ち込める活動、仕事を見つけて欲しい。お金は全く問題ではない。好きなこと、役に立つことを見定めて欲しい。

*1 ご氏名を公表することはありません。教育改善のためあるいは再度ご質問をさせて頂くことがあるかもしれません。宜しく願い申し上げます。

*2 PDCA : P(Plan : 企画)-D(Do : 実施)-C(Check : 評価)-A(Action : 改善)のサイクル